

石川。未来への贈りもの

令和六年
能登半島地震
記録誌



石川県中小企業家同友会



目次

代表理事挨拶 1 絹川善隆	前田印刷株式会社 37 前田陽介
七尾市長挨拶 2 茶谷義隆	～人と自然のためにできること～ 株式会社日本海開発 39 南純代
株式会社PERCH (旧社名：株式会社EHMメディカル) 3 赤坂聡之	有限会社山口水産 43 山口翔太
有限会社スーパーロフティ 5 上野真人	金沢駅西支部 45 炭澤吉治
株式会社奥田屋 7 奥田一博	石川県中小企業家同友会事務局 47 柴克也
有限会社金沢商店 9 金沢崇太	石川県中小企業家同友会事務局 51 廣瀬荘太
株式会社のとじまの不動産屋 11 河尻成実	石川みらい会議について 53
株式会社絹川商事 13 絹川善隆	経営者フォーラムin能登 55 乙丸屋久兵衛
株式会社丸一観光 15 木下恒喜	地域政策委員会 能登島ハケ崎海水浴場復興 プロジェクト 59 館喜洋
株式会社宗重商店 17 宗守重泰	女性部会 61 前多美保
瀧の川運輸株式会社 19 瀧川嘉明	時系列資料 63
有限会社白崎シーサイドホテル 多田屋 21 多田健太郎	地震の爪痕 66
株式会社鍋谷木材 23 鍋谷秀典	全国組織での広報記事 76
株式会社スパーテル 27 橋本昌子	
株式会社浜中たたみ店 31 浜中成美	
有限会社能和商事 33 久田文平	
前田製菓株式会社 35 前多美保	

代表理事挨拶



代表理事
絹川 善隆

このたび、石川県中小企業家同友会では令和6年能登半島地震における記録誌「未来への贈り物」を発行する事となりました。この記録誌は、中小企業経営者がこの震災でおきたさまざまな経験や事柄を、後世へ「贈り物」として届けるために、石川県中小企業家同友会能登支部を中心に結成された石川みらい会議がまとめたものです。この石川みらい会議という名前も私たちが話し合っ
て決めたものです。「能登の復興は石川の未来につながる」その想いのもと考えた名前です。

私たち中小企業家同友会は、労使見解にある「経営者はいかなる状況にあっても経営を維持し続けなければならない」この言葉を大切にしています。今回の震災では、その言葉のもと震災でおきたことを教訓に、企業経営をすすめていかなければならないと強く感じました。石川で生業をする経営者として、また地域を支える中小企業として、地域の暮らしを守り、雇用を維持し、企業を発展させ、地域の未来を地域の人たちと共に創っていくことは、私たちの使命だと思います。この想いを胸に刻み、これからも会員企業がチカラを合わせ行動していきたいと
思います。

結びに、今回のこの記録誌がこれからの能登や石川の希望につながるような
ればと思っております。そして、自然と伝統文化、人の優しさが残る「ふるさと」
をいつまでも大切に想い、中小企業家として明日の未来を切り拓いていきたいと
思います。

七尾市長挨拶



七尾市長
茶谷 義隆

令和6年能登半島地震から1年余りが経過いたしました。震災の発災直後から全国の自治体の皆さま、ボランティアや事業者の皆さまから様々なご支援を賜り、心より感謝申し上げます。インフラ整備等復旧にはまだまだ時間を要しますが、令和7年は「復興元年」として将来の能登半島の復興に向けて歩み出す年になります。

このたび、石川県中小企業家同友会において記録誌「未来への贈り物」を発行されますこと、心よりお喜び申し上げます。私も同友会の会員として石川みらい会議にも参加させていただき、中小企業経営者の震災での経験を後世へ「贈り物」として届ける目的に賛同したものであり、今の思いを風化させないためにも大切な取り組みであると思っています。

震災からの復旧・復興に当たっては、市民、町民の生活再建は元より、その後ろ盾となる経営者の生業再建が大きな鍵となります。震災対応には正解はありません。経営者として様々な制度を利用し、試行錯誤しながら再建を果たしていかなければなりません。そのうえでも、この記録誌は中小企業者のバイブルとして大きな役割を果たすものと期待しております。

最後になりますが、石川県中小企業家同友会の今後益々のご活躍、会員企業の震災からの1日も早い復興と発展を願うとともに、私自身も中小企業家同友会の一員として微力ながら魅力あふれる「ふるさと石川」のために尽力していきたいと思っております。

株式会社PERCH

(旧社名:株式会社EHMメディカル)

〒926-0816
石川県七尾市藤橋町戌15-4
TEL.0767-57-5353



能登支部
赤坂聡之 会員



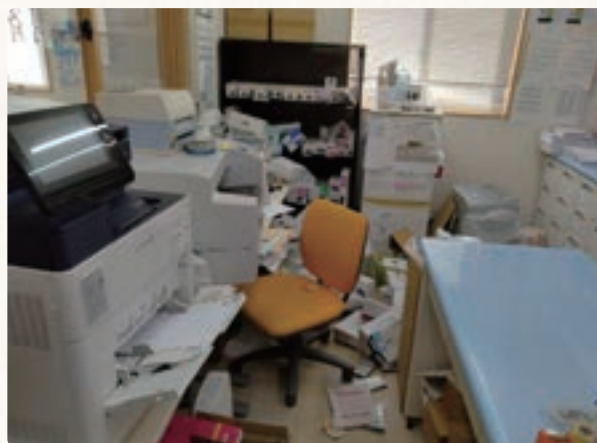
なかのとまち薬局、全社員とともに



ふじはしまち薬局

1. 地震当時の会社の状況

弊社の店舗は七尾市と鹿島郡中能登町にあり、どちらも被災しました。地震後各店舗に視察に行きましたが、薬棚やウォーターサーバーが倒れていたりと、商品が床に散乱していたりとひどい様子でした。ただ、突っ張り棒や落下防止のワイヤーはうまく働いており防災の重要性を感じました。門前のクリニックと連絡をとり、七尾市の店舗は1月4日、鹿島



発災後のふじはしまち薬局（調剤室）



発災後のふじはしまち薬局（待合室）



発災後のなかのとまち薬局（調剤室）



発災後のなかのとまち薬局
（防災を施した薬棚）

郡中能登町の店舗は1月3日に開局することとなりました。ただ、従業員は皆無事ではありましたが、避難所生活やお子さんの通う学校や保育園が開いていないなどで出勤が難しい方が多かったです。初めの方は少人数での営業となりましたが、被災により病状が悪化した方、薬を被災で失くされた方などがたくさん来られ本当に忙しい日々が続きました。七尾市の店舗については、2か月弱の間ネットワーク断線、断水が続き従業員への負担も大きかったと思います。約2か月ぶりに水が出たときはみんなで大喜びしました。

2. 現状

被災から1年が経ち、今では従業員全員がこれまでの生活に戻っています。店舗も大きな損傷もなく問題なく営業できています。ただ、自宅が全壊したため市営住宅に入ることとなったご家族の方がいたり、地震があると動悸がするといった後遺症が出る従業員がいたり地震の傷跡は多くあります。また今回の地震により、もともと問題視されていた能登地区の人口減少、高齢化問題に拍車がかかってしまいました。能登にたくさんの方が訪れ、定住していただけるような地域づくりが必要です。

3. 未来への展望

能登地震で失ったものは多いですが、学んだこともあります。何事も「人」が一番ということです。「薬が切れてどうしようかと思った。薬局を開けてくれてありがとう」と声をかけてくださった患者さん。能登のことを気にかけて、支援してくださった同友会の皆様。そして何より自身が大変な状況の中勤務してくださった従業員の皆様。「人」に支えられ、「人」を支える連鎖がこの社会をつくっているのだと強く感じました。この連鎖が好循環するような会社づくりに社員一同努めてまいります。

有限会社 スーパーロフティ

〒929-2111
石川県七尾市高田町ほ部43番地
TEL.0767-68-3777



能登支部
上野真人 会員



1. 地震発災直後

当社、七尾市で食品スーパーマーケットを営業しております。

当社は 365 日のうちで唯一元旦が定休日とその日は、家で家族・親戚が久々に集まりゆったりとした楽しい時間を過ごしていました。

16:11 頃、震度 6 強の地震が起こり自宅が倒壊しました。

奇跡的に、誰一人ケガすることなく無事だったのが幸いです。

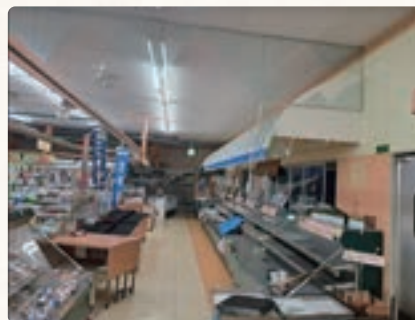
翌日（2 日）営業予定でしたがその日の営業は断念。

商品や棚などは倒れてましたが、店舗全体の被害は少なかったです。

会社に出社すると社員が 10 名ほど自身も被災されたのに関わらず、出社してくれていました。

その時の「感謝」の気持ちは今でも忘れられません。

社員と共に、店内の片づけをしていると営業はしていないの



に、入口に人だかりが・・

「水」を分けてくれとのこと、当店も普段は沢山の在庫はないのですが出来る限り提供させていただきました。

その時、明日は営業しようと決断しました。

幸い水道は止まっていましたが、電気・冷蔵庫・レジは動きまし
たし、社員が何名か出社してくれると連絡があり、何とか1月3
日の営業が出来ることになりました。



七尾市内で、1月3日営業していたのは、ドラッグストア何店舗かと大手スーパーマーケット一社
と当店だけでした。（コンビニエンスストアも全て休業）開店すると食料を求める沢山のお客様が、普
段よく来てくれているお客様に「お店開けてくれてありがとね」と言われると涙をこらえるのに必死だっ
た記憶があります。

その時、「何のために経営（商売）をしているのか？」改めて考えることが出来ました。

また、沢山の方々に支援や売上協力や暖かい気遣いをさせていただいたこと「感謝」の気持ちでいっ
ぱいです。

ありがとうございました。

2. 現状

当店のお客様の多くが地元地域の方々です。地元も街も大きな被害に見舞われ、家屋の解体も進
み街の中が更地が多くなってきています。家屋被害にあわれた方は、市外に仮住まいや仮設住宅など
に住まれ、人の流出・人口減少も進み、地震前よりもお客様の数も減っている現状です。

3. 未来への展望

今後、復興に向けてどのような地域・街になってくるのかまだわかりませんが私たちは、この地域で
お店をやり続ける思いは変わりません。

また、能登の食の生産者・食の産業とも一緒に歩み、微力ですが当社から発信していきます。

元の能登、今までの通常を一つずつ戻って行けるよう努めて行きます。

株式会社奥田屋

〒926-0175
石川県七尾市和倉町ヨ部5番地1
TEL.0767-62-2062

宿泊業（温泉旅館の運営）

明治40年創業の温泉旅館で創業以来、源泉かけ流しの温泉と温かいおもてなしを大切に運営してきました。



能登支部
奥田一博 会員



震災前の旅館になります



震災前の旅館になります

1. 地震による被害状況

地震により施設の基礎部分が壊れ建物が一方向へ傾く等の甚大な被害を受けました。

コロナ禍に一大決心での大きな借入をしての大改装をした宿泊施設が一瞬にして破壊されてしまいました。

建物が被災をしたうえでのお客様の予約は全てキャンセル、水も出ない、もはや100年以上やってきた温泉旅館を廃業するしかない・・・地震直後の1月はそのような状況でした。



被災直後の画像になります



被災直後の画像になります



現在建替えの予定をし
新たな宿泊施設を建設中です

2. 再建を決意した経緯

沢山のお客様から励ましのお言葉をいただき、また同じ状況で被災をされても前向きに進む経営者の皆様と関わるうちにドンドン勇気が沸いてきて再建を決意しました。

3. 現在とこれから

現在は建物を解体し新たな宿泊施設の建設を進めております。長年受け継いできた温泉文化を大切にしたいうえで地域と共に歩んでいける宿泊施設を目指して進んでいければと思います。

有限会社金沢商店

〒920-0015
石川県七尾市矢田新町
二部111番地4
TEL.0767-53-2046

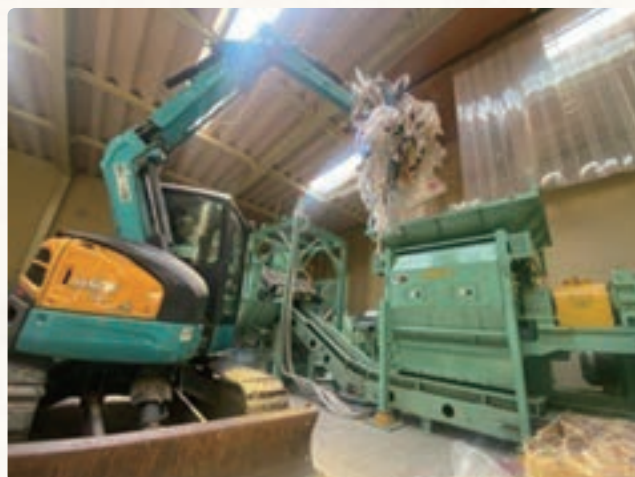
●古紙・金属リサイクル業 ●一般廃棄物処理業 ●産業廃棄物処理業

能登支部
金沢崇太 会員



1. 地震直後の会社の状況

弊社は、石川県七尾市で廃棄物処理業を営んでいます。地震直後は、すぐに社員さんや設備機器などの被害状況を確認し、幸いにも大きな被害はありませんでした。



それでも、自社廃棄物処理工場の地面は全体的に 5cm ほど地盤沈下で沈み、至る所にヒビ割れと段差があり、断水により水が全く使えない状態になりました。

ですがまずは会社のことよりも、自分も含め社員さんや近所の方々など、全員が生活できるレベルに戻れるよう、水、食料、その他物資の確保に必死だったのを覚えています。



2. 発災から1年

ある程度生活ができる目処が立ってから、会社の復旧を進めようとしたところ、断水によって処理設備が稼働できない、行政処分場が稼働していない、住居の被害が大きかった複数の社員さんの退職など、様々な問題が起こり、そんな状態が、長い間続きました。

そこから1年、目まぐるしく復旧に追われる毎日でしたが、現在では通常通りの業務に戻ることができました。しかし、「人不足」など今回の地震が残した爪痕はまだ深く、乗り越えていかなければいけない課題は山積みです。

3. 未来への展望

今回の震災で、多くの方々から支援と励ましの言葉をいただき、感謝と温かさに救われる場面が多々ありました。同時に、「当社が周りの方々をどれだけ支えることができたのか」を考えさせられ、誇れるほどの支援ができなかったことに悔しさを感じました。

今以上に地域から必要とされる会社を目指し、「支える側」になることで、地域の安心と発展に貢献していける会社に私たちはなります。

株式会社 のとじまの不動産屋

〒926-0202
石川県七尾市能登島
八ヶ崎町6-4
TEL.0767-84-1888

能登半島中心の不動産仲介業



能登支部
河尻成実 会員



事務所前から日本海を望む

1. 地震当時の会社の状況

自宅は地震で傾き、事務所には津波が押し寄せた。

私は、発災時、能登島の主要道路を走行中、地震が起きた。「道路の陥没地点 200～300M 手前を走っていた。もう少し走っていたらと思うとぞっとする」自宅に戻ると、家全体が傾いてあらゆる物が倒れ、1 階の天井が落下し、住める状態ではなくなった。

ただ、この現状を見て悲しいとか怖いとかじゃなく、この地震に負けれんと言う思いの方が強かった。幸い、家・事務所には、家族含め誰も居なかったのが不幸中の幸いであった。ものがなくなっても体一つあればなんとかなるそんな気持ちでもあった。また、私の地元である能登島八ヶ崎海水浴場も地震と津波（1.5M 越え）の被害を受け壊滅状態となった。しかし、同友会のメンバーにも助けられ 2024 年度も何とか開催できた。今後も引き続きやっていきたい。



のとじまの不動産屋事務所も津波の被害を受けた



能登島島民の主要道路25年4月現在通行止め



能登島ハケ崎海水浴場



県道を塞いだ近所納屋、住民は車で避難が出来なかった



海水浴場1.5Mの津波を受けた

2. 不動産屋として

震災直後から、仮住まいを求めて沢山の被災者からの問い合わせが相次いだ。

ただ、空き家の古い家は地震でやられ、元々賃貸住宅の少ない地域でもあるため貸す物件がない。復興を進めていくには、多くの人々に能登に入って頑張ってもらわないといけない。一時的にでも住める物件を紹介することが我が社の急務である。復興が落ち着いたなら、「ふる里と都会をつなぐプロの不動産屋」として、能登半島全体の魅力を発信していきたい。



白山・野々市支部
絹川善隆 会員



令和6年1月1日 能登半島沖に発生した大地震。私はその時、自宅のある野々市市にいました。初詣を終え自宅にて寛いでいた時、突然携帯とアップルウォッチから緊急地震速報がなりました。その数秒後、大きな揺れが数十秒続き、自宅の離れにて身をひそめながら揺れが収まるのを待ちました。その後すぐに野々市市は震度4と発表がありました。

1. 阪神大震災の時の経験が役に立つ

実は私は阪神大震災の時神戸に住んでおり大地震の経験がありました。また、防災士の資格も持っていたので、地震発災における自身の身を守ることや、非難する場所は日ごろから決めていました。地震が収まるのを待ったあと、玄関にある防災グッズを持ち出し、車で自宅近く（3分ほど）にある大きなスーパーの駐車場に避難をしました。私の車には情報を得るために必要なテレビ・ラジオ・インターネット・電源確保のためのコンセント装備がついており、避難時も想定していました。また、近くのスーパーの駐車場は、近くに倒壊する建物がないこと、いざというときの食糧確保が可能なこと、またガソリンスタンドが隣接していることなど、避難できる場所とは最適と考えていたのです。

2. 発災から 災害対策本部を立ち上げる BCP発令 3つの班に分けて被害確認と早期復旧

その後、発災から1時間以内に私より社内SNSを使い「BCP」を発令。社員の生存確認とこれからの手順について発信をしました。当社では数年前よりBCP事業継続化計画に取り組んでおり、災害発生時における社内のルールを決めていました。今回もこのBCPが大いに役立ちました。社員の生存確認がおおよそ取れたあと、1月2日に災害対策本部をたちあげ担当責任者・社員が12名本部に集まり、電源の確保・データのバックアップ・社用車の確保などを行いました。次に、3つの班に分けて状況確認と情報収集を行いました。3つの班とは、①各店舗被害確認（電源・PC機器・倒壊・破損・車・資材等）②当社不動産管理物件被害確認（倒壊・事故・水漏れ・設備不良等の確認）③建築中の建築現場・モデルハウス等の商品被害確認（自社物件・建築中リフォーム）でした。結果は10件ほどの被害はありましたが、大きな被害がなかったことは幸いでした。また、本部では、水道・電気・ガス等の不動産管理を行う上での主要協力業者様とも連絡をとりあい、今後の対応についても協議しました。その後、お客様からの緊急連絡窓口の発信や対応、各オーナーやお客様への案内を（HPやオーナーアプリ）発信しました。日ごろからの事前対応がとても役にたったのです。そして、その対応はお客様から「こんな時にも頼りになった」との言葉を頂き社員一同とても嬉しく思いました。

3. 震災の経験を次につなげる 地域の暮らしを守る不動産会社 それが私たち

私たちの会社ではこれらの経験をできるだけ記録するようにしています。今回のことも記録として次の災害に備えるものとなるでしょう。私たちは、いかなるときも事業を止めない。お客様の資産や生活を守るのが私たちの使命だと思っています。危機的な状況になっても経営を維持することは地域の人の暮らしを守り、雇用を維持することになります。私たちは、同友会の理念でもある「国民や地域と共に歩む中小企業」として、これからも、この思いを社員と共有し「地域の暮らしを守る不動産会社」として事業を続けていきたいと思っています。

4. 私たち石川県中小企業家同友会から 未来への贈り物として

最後に「私たちの行動が未来をつくる」この言葉を「未来への贈り物」としたいと思っています。経営者はいかなるときも経営を維持発展させていかなければならない。これは「人を生かす経営」の中の一文であります。今回の震災は、まさにその想いを強く感じることとなりました。私は、今こそ「人を生かす経営」が、この難局を乗り越え発展する力になると感じています。中小企業家同友会の価値観であるこの「人を生かす経営」のもと、中小企業家同友会会員や各企業、働く従業員、行政や大学、金融機関、そして地域の人々など、みなでチカラを合わせて行動し、石川全体に広めていきたいと思っています。そして、私たち中小企業家で、一刻も早い能登の復興と地域の方の生活向上、そして地域経済の発展へとすすめ、夢あふれる明るい未来を目指し行動していきたいと思っています。みなさんで未来を切り拓いていきましょう！

株式会社丸一観光

〒926-0014
石川県七尾市矢田町2-1
TEL.0767-53-6161



能登支部
木下恒喜 会員



七尾本社の外観

1. 地震直後の会社の状況

当社は七尾市矢田町にある観光バス・旅行事業を展開する企業で、発災時も勤務中の社員がいました。しかし、私自身もすぐに動ける状況ではなく、能登エリアの約 50 名の社員の安否確認も十分にできず、数名の幹部社員と連絡を取りながら、家族と共に避難することしかできませんでした。津波警報が解除された後、ようやく会社にたどり着いたのは、翌日 1 月 2 日の午前 1 時頃。多くの棚やパーテーションが倒れていましたが、幸いにも建物自体は無事で、外の井戸水の蛇口から水が出たときの驚きと喜びは、今でも鮮明に覚えています。



能登エリアの学生輸送についての報道



会社敷地内の井戸水を地域に開放したことについての報道

2. 発災後の歩み

社員をはじめ、多くの関係者が被災する中で、何より社員本人の犠牲者がゼロだったことは幸いでした。人的・物的被害は最小限だったものの、周囲の景色は一変し、日々状況が変化する中で、自社の事業を通じて何ができるかを考えました。

まずは、学生や復旧作業員、ボランティアの輸送に精力的に取り組み、石川県への誘致を目指したオンラインツアーの実施、「今行ける能登」ツアーの実行などを通して、能登のためにできることを続けてきました。しかし、災害発生時の動きとしては、事前の取り決めは機能せず、マニュアルだけが整っていても意味はないことを痛感しました。そして、災害時は事業の継続と生活の継続、この両面を考える必要があることを身を持って体験しました。

3. 忘れてはいけない思い

振り返ると、本当に多くの方々に助けていただいたことを改めて実感し、ここまで歩みを止めずに来られたことに感謝の気持ちが湧いてきます。一方で、9月の奥能登豪雨では、輪島・珠洲エリアが二重被災となり、人間はつくづく「忘れる生き物」なのだと痛感しました。それは、自身が震災で被災したにもかかわらず、豪雨災害をどこか他人事のように感じてしまっていたこと。自戒の念を込め、被災地へ足繁く通い、自らの中でもこの災害を風化させることなく、能登復興に関わり続ける思いです。地域を盛り上げる「火」は一人ひとりが心に持っているはずであり、その火を灯として起こし、明かりを周りにも点けてまわることで地域を照らす経営者になるべく、学び、成長し続けていく思いをここに残します。

株式会社宗重商店

〒920-0342
石川県金沢市畛田西1-112
TEL.076-266-6000

解体を中心に10の事業展開をしています。



金沢駅西支部
宗守重泰 会員



2025年復興スローガン「みんなのチカラで！」のもと全社一丸となって頑張ります

1. 地震当時の会社の状況

我々解体工事業者にとって、思いもよらない1年のスタートとなりました。当初計画していた年初めの予定は全て変更し、復興を最優先に。経営指針発表会を復興決起会に改め、自分達のできることを模索しました。社員や協力会社に声掛けして集めた支援物資は延べトラック 30 台にもなり、震災直後から飲料水や保存食、衛生用品を直接避難所に届けることができました。



支援物資①



支援物資②

2. 復興に向けて

石川県構造物解体協会として県から公費解体の受託も決定。当社は奥能登穴水町を担当することになったのですが、衣食住の生活環境が儘ならない中でこの工事は想像以上の苦労の連続でした。現在は廃校となった小学校の跡地に 200 人が宿泊できる作業員宿舎を整備し、そこを拠点に現在 80 班 300 人以上が穴水全域で解体作業を行っています。昨年末の時点で 50% を超える進捗率を達成しています。



宿舎外観①

3. みんなのチカラで!

当社が担当する穴水エリアでは“みんなのチカラで!”というオリジナルの復興スローガンを掲げており、全工事車両、全作業員のヘルメットにロゴを貼って、気持ちをひとつに日々難解な現場と向き合っています。

被災され、これまでの日常を一瞬で奪われてしまった現地の方から、我々工事業者に対して労いや感謝の言葉を頂くことが多くあります。能登の皆様の強さと優しさに感銘を受けながら、1 日も早い復興に向け再度気を引き締め、引き続き全社一丸となって本気で取り組む所存です。

令和 7 年 10 月という工期に向けて、安全を最優先し最後までやり抜きます。



宿舎外観②



解体現場①



ダンプ



解体現場②

瀧の川運輸株式会社

〒926-0017
石川県七尾市万行町
2丁目173番地
TEL.0767-52-3100

1975年七尾市にて一般貨物自動車運送事業を創業
主にコンクリート橋桁の運搬、首都圏にビルの建築用の鉄骨等を運搬しています



能登支部
瀧川嘉明 会員



今江新橋TR待機

1. 1.1 発災直後

七尾市内で運送業を中心に生業をしています。

当社は多角化経営で1月1日も仕事をしている人がいました。

地震の影響で仕事は中止になりドライバーは帰社してきました。

2日以降の仕事は全てキャンセルになり、自宅に被害が出て、仕事に来れなくなった人もいましたが幸いに怪我をした人や2次避難で地元を去った人がいなくて良かったです。

1月10日頃までは仕事もキャンセルになりましたがお陰様で車両や建物被害がなく発注がくれば直ぐに仕事出来る体制が整いました。

1月2日には七尾青年会議所が会社の倉庫を貸して欲しいと申し出があったので1月3日より支援物資の受け入れ窓口

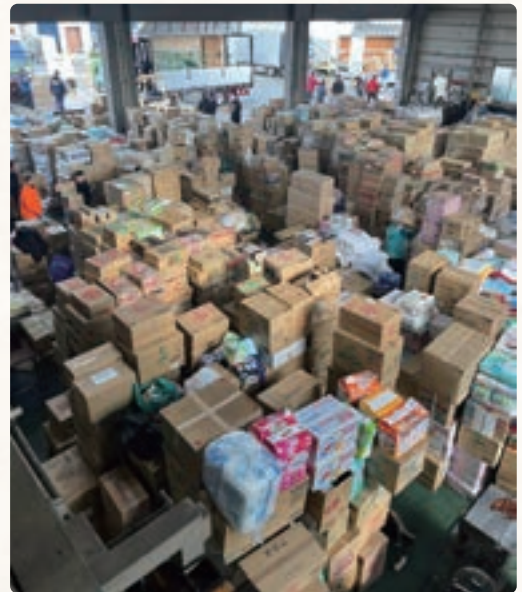


になって被災された地元の人や珠洲、輪島の仲間たちにも2次デリバリーを行い被災された人を支援する事が出来ました。

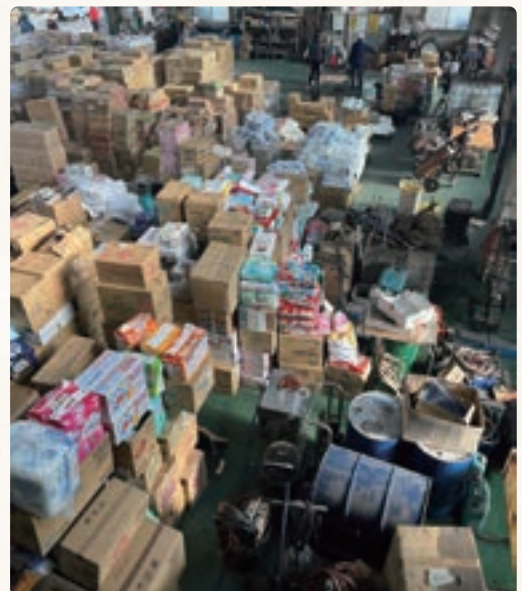
また1月5日からは七尾商工会議所青年部からも支援物資の受け入れをお願いされたので1月8日まで開設いたしました。届いた物資を見ると生活必需品の他、ガソリン、反射式ストーブ等々があり日本全国からの善意に目頭が熱くなってきました。自分が本当にちっぽけな人間だったと思いきや情けないとも感じました。まだまだ心の豊かな人がいるんだと思い自分も今度何処かで災害が発生した時は助けようと心に誓っています。

1月9日からは七尾市からの依頼で各避難所に物資を届けることになりました。避難所への配達を持って行っても持って行っても足りないと言われ避難所の深刻さが伝わってきました。

徐々に県外への発送の依頼も増えてきました。ドライバーたちは、この水も出ない七尾市より各地へ仕事に行く時に洗濯物とポリ容器を持って仕事に行き洗濯と水を汲んで帰る、そんな生活が40日ほど続きました。



日本全国からの支援物資を受け入れしています



生活必需品、インスタントラーメン、カイロ、生理用品、ガソリン、水を入れる容器、粉ミルク、オムツ等
幅25m、奥行き20m=500㎡の場所でも入りきらなくなる程でした

2. 現状

仕事は発災前には戻ってきましたが、依然、仮設住宅に住んでたり公費解体待ちだったり、解体した所は空き地になり雑草が生えてる等、まだまだ先が長いのが現状です。今年は阪神淡路大震災からちょうど30年、30年後の七尾はどうなっているのか？自分は80歳になるのでこの目で見える事はできないと思いますが1歩ずつ進んで行ければと思います。

有限会社白崎シーサイドホテル 多田屋

〒926-0174
石川県七尾市奥原町3-29-2
TEL.0767-62-3434

和倉温泉で旅館をやっています。



能登支部
多田健太郎 会員



「よいしょー！ よいしょー！」

和倉温泉多田屋の2024年元旦はスタッフと一緒に初詣に行き、恒例の餅つきを宿泊のお客様と共に楽しんでスタートした。毎年いらっしゃるお客様に囲まれ、スタッフも笑顔でつきたての餅をオススメしている。そんな明るい2024年がスタートした日の16:10頃に能登地震が発災。和倉温泉は震度6強。事務所で被災した私はあまりの揺れに現実が受け入れられず、夢であってくれとひたすら揺れの中で祈っていた。現実を受け入れてからは、普段なら7分で行ける避難所へ被災した道路を30分かけてお客様をお連れし、水やお茶菓子、布団などを余震が続き危険な館内から運び出して避難所へ運び続けた。

旅館は半壊したものの奇跡的にお客様もスタッフも家族も怪我はなかった。一番困ったのは水。断水が解消するまで3ヶ月以上の時間がかかった。発災からは館内の片付けや被災箇所の確認、全体集会で多田屋の今後の話をしながら、あっという間に半年が経ち、解体の見積りや市の被災判定、行政や議員、色んな協会の被害状況の見学や視察も沢山受け入れた。しかし、多田屋や街の復興が



割れた壁面

進むわけでもない事に気付き、遅ればせながら多田屋を持続可能な企業として復興に向けて動き出している。

半壊の建物は1/3ほどの解体が必要で、その後再建してのOPENまでは3年程度かかる予定。それまでの雇用の維持や資金の確保、OPEN時の採用等課題も山積み。それでも地震で新しい多田屋への道が見えた事をプラスにとらえて、一步一步スタッフや家族とともに進んでいく。



室内漏水



建て増した部分がずれて段差ができた。



傾いた客室露天風呂



客部屋庭

株式会社鍋谷木材

〒920-0341
石川県金沢市寺中町チ25-1
TEL.076-267-1334



金沢駅西支部
鍋谷秀典 会員



発災時は金沢市沿岸部に近い実家にいてそろそろ初詣に行こうかと話していた時でした

携帯電話から緊急地震速報が鳴りまもなく感じたことのない大きな横揺れが長く続き築 45 年の実家はギシギシ音を出し潰れるのではないかというくらいの揺れの中、家族誰も何もできないまま座っているだけで揺れが止まるのを待っているだけでした

その時何かが割れる音が聞こえ、見ると縁側に近いところに立っていた灯籠がガラスサッシを破り縁側の廊下にガラスの破片とともに転がっているのが見えました

テレビから「津波が来るから逃げて」と津波警報が出る中、近所にある 5 階建て中学校に向かい家を出ると見たこともないような車の大渋滞が起きている中、必要な荷物を持って歩いて中学校へ向かいました

中学校 4 階に上がると津波が来るのではないかと心配そうに海のほうを見ている人が大勢いて情報が何もない教室の片隅で不安の中家族で身を寄せ合い座っていた、たった数時間ですが身も心もとても窮屈だったことを思い出します

幸い津波が来ることもなかったので家に戻りテレビをつけると輪島が燃えている映像が流れていました

輪島にはお世話になっている箸工房もあるし、同じサッカーチームのメンバーもいて気になりながらも数日連絡もできずに



いました

弊社の被害としては事務所の棟瓦が崩れ、カタログが散乱したほか工場では簡易型の集塵機が倒れるなど多少の被害にとどまり営業に差し支えることはありませんでした

日が経つほどに奥能登の被害の大きさがわかる中で自分にできる支援は何かを考えていたところでお世話になっている輪島の箸工房さんから動かない機械の点検をしてほしいということで川越会員と共に震災後に初めて輪島入りしたのが1/21でした

まだ真っ暗な早朝に金沢を出て輪島を目指したのですが里山街道の損壊がひどくかなり迂回してなんとか輪島まで辿り着いて見たのはまだ焼けた匂いが漂っていた焼け野原になった朝市跡でした。

震災の2か月前に偶然にも朝市を散策しておじちゃん、おばちゃん達と話しながら買い物した朝市通りはもうそこにはありません

そのころ電気は戻ったけど水が出ないと聞いていたので輪島に住む後輩に必要なものはないかと聞いても特に困っていることはないと言ってくれません

なんでも話しあえる関係だと思っていましたが本心を聞くことの難しさを感じた瞬間でもありました

初めて輪島へ支援物資を持って行ったのは1/31日でした

支援物資を2トントラック一杯にして輪島の知人の自宅まで届けたのですが2日後にはもう水がないと連絡があって2/4にもう一度トラックで届けたのが輪島支援の始まりでした

輪島市が配る支援物資は取りに来てくれた人だけに一人分渡すので取りに行きたくても行けない人達がたくさんいる現状を聞きました

後輩の仲間たちは被災者でありながらもそんな方達へ必要な物資を届けたり、また必要としている物資の情報をタイムリーに教えてくれるようになりました



6月まで月に2回支援を継続できたのは協力してくれた同友会の仲間達がいたからです

自分は必要とされる物資を届けているだけなのですがその物資を提供してくれたのはオーミスーパー松岡さん、明月堂竹田さん、アイビー村上さん、大西運輸丹羽さんにはお世話になりました

食料・日用品などはロフティー上野さんには無理を言って揃えてもらったりと多くの仲間がサポートしてくれました

また青年部時代にはよく全国と交流させてもらった縁もあり他県では香川同友会、福島同友会、兵庫同友会、富山同友会からも支援を頂きまた現地視察にも来てくれました

支援活動を通じて自分が感じたのは同友会活動を継続して交流してきた会員との関係は同友会理念を共有、共感しているからこそ悩んだり困ったときには支え合える関係性ができていたのではないかと感じました

任意団体で代表している石川県地域産材活性化プロジェクトのほうで取り扱いしている「能登ヒバかほり箸」も復興支援として全国からご注文を頂いております

「能登ヒバかほり箸」の利益は全て能登復興支援に活用させて頂いています

地域の材料で地域を支え、地域に根差した企業を目指していきたいです。一日も早い能登復興を願いこれからも自分にできることを継続していきたいと思います





株式会社スパーテル

〒920-0362
石川県金沢市西念
1丁目1号8番NCO金沢2F
TEL.076-213-7005

石川県を中心に、薬局事業・介護福祉事業を展開



金沢城南支部
橋本昌子 会員



令和6年能登半島地震の医療支援チームにかかわって

令和6年1月1日の能登半島地震は、最大震度7、死者数241人、家屋の損壊や浸水など107,075件に及ぶ甚大な被害を出しました。交通手段が寸断され支援物資の輸送やインフラ整備を拒み復旧に時間がかかりました。

私の実家は、珠洲市にあり、高校までと大学卒業後の合計20年以上を珠洲市で過ごしました。発災後の1月4日に実家を見たとき、玄関の軒先が屋根ごと地面に落ちており、家の中が、散乱していました。途中の能登道路は途中寸断され、倒壊した家が並び、私の大好きだった景色が変わり果てていました。

私がかかわった災害医療支援について紹介したいと思います。1月2日に災害対策本部を設置し薬剤師チームとして全国の仲間とともに医療支援にあたっています。全国から応援にきた薬剤師は、3月10日現在で、延べ4300人超となり、1月7日以降モバイルファーマシー（災害対応医薬品供給車両）13台が全国から集結し、能登半島の各地に医薬品を届けました。1月2日から3月10日までの能登半島の薬剤師チーム支援で感じたことは、「情報共有」と「情報分析や判断」の重要性です。



珠洲市の観光名所である見附島の震災後。

やるべきこと、やらないことの見極めや、いつやるのか、誰がやるのかの判断を迷っている暇もなく即時に行動し調整をする。その繰り返しでした。

発災直後は、刻々と変化する状況の把握と対応が求められます。その対応は、各地域や人によって変わります。全体を把握する調整本部と現場で指揮するリーダー、現地で動くメンバーが連携しながら進めます。

各避難所では、「いつもの薬がなくなった。病院があいていない。病院に行く方法がない」「足を怪我した。消毒の薬や包帯がない。発熱した、おなかの調子が悪い」などいろいろな医療ニーズがあります。DMAT、JMAT、保健師チーム、看護師チーム、リハビリや栄養士などが発災直後から、命を守るために多くの専門職が全国から支援に来ており、被災者の方々と同じ拠点で寝泊まりをして情報共有しながら活動をしました。

水が出ず、宿泊場所がない状況です。災害トイレの使用や寝袋での睡眠、食料などは持参。ゴミは全て持ち帰る。自分のことは自分で解決する。当然ですが、災害支援の鉄則です。

この支援を通して、『群盲象を評す』という言葉の思い浮かべました。数人の目の見えない人が、それぞれ象の足や鼻やしっぽなど、別々の一部分だけを触り、象について語り合う、でも触った部位により感想が異なります。足を触ったものは、柱のようだった、しっぽを触ったものは、縄のようだった、鼻を触ったものは蛇のようだった。それぞれ全員が正しいことを言っているのに、話が食い違うのです。これは、物事の一面だけをみて全てを理解したと思って



珠洲市にある実家。大学時代を除き、20代半ばまでここで過ごしましたが、地震で屋根が根こそぎとれて下に落ちました。



こちらは夫の実家です。1回目の揺れで、義母、義兄は外に逃げて無事でした。



この写真は夫の実家の写真です。1回目の揺れで、義母、義兄は外に逃げて無事でした。

しまうから起こることであり、緊急時の対応では一部を見た情報はとても大事だけど、全体を見る目も大事ということを感じました。

珠洲市は私の故郷です。半島の先端という場所、孤立した地域も多く最初はニュースにもあがらず、現地に行ってみると変わり果てた状況に愕然としました。それほど悲惨な状況でした。

支援を通して、何度も珠洲市に足を運びましたが、毎回海岸線を進むと、美しい自然、美しい景色に心が洗われます。日本に誇る美しい能登半島を再建しなければと思うようになりました。これから先、震災を風化させず石川県民として、一緒に復興に取り組み進んでいく。それが私たちの使命ではないでしょうか。



全国からモバイルファーマシー（災害支援薬局）が薬剤師とともに支援に入り、被災地で活躍しました。



この写真は、全国から支援に来てくれた薬剤師の仲間です。
健康増進センターに臨時の薬局を創設してもらい、調剤やOTC医薬品の管理を行い、避難所に届けました。



子供達と避難所にもなっていた、珠洲市立正院小学校で、先生から依頼されて薬物乱用防止教室を行いました。
他の地域に避難している子供たちはオンラインで参加しました。

株式会社 浜中たたみ店

〒926-0012
石川県七尾市万行町17部7番地
TEL.0767-52-0974

主に畳の製造販売、他 障子・襖の張替え、カーテン・手摺り付けなどの小工事



能登支部
浜中成美 会員



旧中島小学校避難所に断熱材提供

1. 発災当初

元日、地震後すぐに2名の社員の安否確認、無事との事。すぐに得意先様（工務店）から安否確認をいただいた。津波情報で近隣の方々が高台へ避難。すぐそばの道路の渋滞をみて避難はあきらめ社用車数台を少し高い場所へ移動。会社へ戻ると父が倒壊した資材を引起こしていた。父に下敷きになるからと引き止めた。社員から家が住めないと連絡あり、近所の空き家を3件下見に。1件、少し直せばすぐに住める家があった。空き家探し中、水道の水が止まっていることを知り、幸い自宅と会社は井戸水が使用できたため、ご近所にバケツやペットボトルなどと水を提供し井戸水があるとお知らせに回りいつでも遠慮なく使用可能と伝えて回った。

2日、連絡いただいた得意先様（工務店）に空き家の修理依頼。市役所に弊社のレンタル用畳の提供を申し出たが市役所自体が混乱状態の様子。連絡を待つことにした。その後数日たっても連絡なし。3日、朝から金沢へ向かいホームセンターでブルーシート、ポリタンクを購入しご近所の方にお分けした。自宅は井戸水だったが給湯器が倒れ入浴できず、金沢の妹宅で入浴。4日から得意先様（工務店）が空き家と自宅の応急処置。11日には給湯器設置し入浴ができた。

9日、被災した社員がなんとか出勤してくれた。製造機器の試験運転、調整をしながら営業できた。



弊社倉庫内の惨状
畳や材料が倒れてる様子

そして、取引先様からガソリンや水の支援をいただき、更に、15日、断熱材100枚を避難所に提供の支援をいただき避難所へ提供することができた。その後の休日は地盤沈下し少し傾斜した倉庫内の土間コンクリートをする為、在庫や不動産在庫などの処分、倒壊した機械出し、営業日は畳工事依頼が次々と入りお困りのお客様にお応えしたく無理をして身体が悲鳴をあげてしまった、その後年末に手術をして直すことができた。



工場内の製品が倒れてる



自宅の2階廊下壁が外れて落ちている

2. 1年後

1年が経ち、教訓は東北地震後、緊急時の行動を社員と話し合っていたので行動が早く出来たように思うがBCP対策として成文化が必要で自社だけでなく地域のためには避難所支援など行政任せではなく民間が積極的に関わり共生が大事だと思った。とはいえ、被災した人、事業所は人のため地域のために動きたいと思っても時間と心の余裕が生まれず、申し訳ない気持ちでいっぱいだった。



3. 未来

これから復興していこうと前に進んでいる人がたくさんいるが人口減少が激しい。復興には多くの人が関わる必要がある。今は全国から応援の業者が働いてくれている。七尾市だけでみると和倉温泉が復興のシンボルと成りうる。旅館、ホテルの再建は多くの助成金、補助金を使い、多くの仕事、お金を生み出すがほとんどの場合、県外の手続き業者が建設していくのであろう。今は県外の事業者の力を借りるとしても少しでも今も、その先も地元で働く人達に仕事が回るように、共生が大事だとおもう。

有限会社能和商事

〒926-0031
石川県七尾市古府町ほ36
TEL.0767-53-0907

能登支部
久田文平 会員



1. 地震直後の会社の状況

事務所、倉庫は物が足の踏み場もないくらい散乱、ドアは倒れ地面から泥水が湧き上がっていました。少し落ち着いてから今何が出来るかを考え、倉庫から飲み物などを取り出し近所の方に配布。二日目からは七尾市内の状況確認、倒壊、崩落、陥没、考えていたより酷い状況。お客さんと連絡を取るも、どんな言葉をかけていいかわからずとても辛かったです。それでも明るく元気に振舞っている方が多数いらっしゃり、非常時に発注して頂いたことが大変嬉しく、誰かの力になれることをと喜びを感じました。その後もボランティアにも参加し、今出来ることを精一杯やってきました。



地震直後 棚が多数崩壊しました。



青年部の方に修理していただきました。感謝



2022年9月 見附島



2024年 地震後 見附島



2021年 輪島市門前町 皆月湾



2024年 地震後 輪島市門前町 皆月湾

2. 感謝

当たり前のできない状況になり改めて多くの方の力をお借りしていると実感。家族、親戚、友人が生活をサポート、会社では従業員、得意先、仕入れ先、同友会等、多くの方に支援して頂きました。特に倉庫は手が付けられない状態でしたが、浜中さんが事務局に連絡、更に青年部、新家さん、石橋さん、小原さん、高松さん、中元さん、西さん、6名の方が崩れた棚の修理や掃除のお手伝いをして頂き誠に感謝しております。本当にありがとうございました。

3. 未来へ

人それぞれ被害状況も大きく異なります。もう地震の影響はない方、まだ影響がある人様々の方がいます。特に奥能登は本当にひどい状況です。人間のいいところ、悪いところ、嬉しい話、嫌な話、この1年いろんなことが有り考え方が変化しています。未来に向け今出来ることをやり、会社仕事を通じて人として人間力を高め地域貢献していきます。この記録集が誰かの力になるよう願いを込めて、能登復興の為に頑張ろう \ (^o^)

前田製菓株式会社

〒929-0105
石川県能美市中ノ江町ほ50
TEL.0761-55-0207

お餅やクッキー、ケーキ、パイ、チョコ系をメインとした観光土産菓子を中心に製造をおこなっており、その数は約20種類、1300商品を超えています。全国各地の特産品を使用した商品を企画開発し、サービスエリアや観光地、海外などへ幅広く展開しています



南加賀支部
前多美保 会員



1. 地震後の会社の状況

石川県内には能美市の本社工場、小松市の軽海工場、白山市の白山工場の3工場があります。

地震による被害は、施設としては天井や壁の罅や破損、配管の破損等設備としては機械の転倒、故障等。その他としては地盤で浄化槽の破損等配管の破損では本社にて配水管がずれた事により、1階に漏れ出す2次被害がありました。

構造上、2階に製造機械が多いのですが、地震ではより高層の階が揺れる関係から、機械のズレや転倒が多くみられ、内部での破損や歪み、時間経過とともに故障する案件も多くみられました。

地盤の影響も大きく、地割れや沈下が見られ軽海工場では浄化槽に破損が生じました。



2. 震災後の取組

- ① 避難訓練の実施、備蓄（ウォーターサーバーの導入、簡易トイレ購入）緊急連絡先の再確認、防災組織の見直しなどを安全衛生委員会を中心に毎月開催
- ② 被災者の方へ社員が交代での炊き出し
金沢市産業展示館、能美市にて炊き出し
（7回実施）
豪雨の被害により、炊き出しを再開（5回実施）
- ③ 社員が中心となり、物資を集め、自社で出たロス商品の購入代金を支援金にし持参しています。



3. 感想

- ・ つらい状況の中でも笑い声や笑顔が多く、お互い助け合いながら前を向いて、乗り切っていこうとしている姿が見られた。
- ・ 炊き出しをしている時に、周り近所の分も頂きたいという、助け合いの精神を垣間見て温かい気持ちになるとともに、皆さん明るく、こちらが元気を貰いました。
- ・ 人が集まれる場所づくり（コミュニティー提供）が重要だということ。

4. これから

私達の会社で製造する商品は、皆さんを笑顔にします。お茶を飲み、お菓子を食べてそこに人がひとり、ふたりと増え、能登の方達が久しぶりに会ったね~どうしてる？会話できる場を提供し、お互いに笑顔の時間を過ごしています。

新しい能登を地元の方々と一緒につくることや、いつでも気軽に足を運べるような場所づくりをし、これからも能登支援を続けていきます。

そして自社での BCP の定期的な見直し、訓練を実施していきます。

前田印刷株式会社

〒924-0004
石川県白山市旭丘二丁目16番地
TEL.076-274-1155



白山・野々市支部
前田陽介 会員



記録し、伝え、元気を届けるために

令和6年1月1日。穏やかな新年を迎え、自宅で年賀状の整理をしていたそのとき、突如として大きな揺れに襲われました。家屋全体が大きく軋み、立っているのも難しい大きな揺れに、家族の身を守りながら、収まるのをただ待つしかありませんでした。地震がおさまった直後、まず最初に頭をよぎったのは、会社のこと、そして社員たちの安否でした。すぐに連絡を取り合い、全員の無事を確認できたときは、本当に胸をなでおろしました。年始の喜びは一瞬にして消え去り、頭の中は「次に何をすべきか」でいっぱいでした。



翌2日、まだ暗いうちに工場長とともに本社工場へ向かい、被害状況を確認しました。幸いなことに、建物や主要な印刷設備に致命的な損傷はなく、通常業務の再開は可能な状況でした。しかし、オフィス内は書棚が倒れ、資料や道具が散乱し、足の踏み場もない状態。年末に時間をかけて行った大掃除が水の泡となってしまいました。年初から再び全社員で片づけ作業に追われ、特にオンデマンド印刷機の位置ズレは微細な調整が必要となり、復旧には細心の注意を要しました。

そんな中、県外の同業者から「大丈夫ですか」「何か必要なものはありますか」と多くの温かいメッセージと支援金をいただきました。そのご厚意に心から感謝すると同時に、「私たちも被災地のために何かできることはないか」と考えるようになりました。そこで私たちは、特に支援が行き届きにくい子育て世代に少しでも役立ててほしいという思いから、七尾市へ粉ミルクを寄贈しました。直接的な支援は小さな一歩かもしれませんが、少しでも被災された方々の力になればという思いからの行動でした。

今、私たちができることは、復興に向けて歩む能登の姿を「記録」し、「伝える」ことだと思っています。今回の震災は石川県全体に大きな影響を与えましたが、それでも前を向き、力強く立ち上がろうとする能登の人々がいます。その姿を、次世代へ、全国へ、世界へと発信していくことも、印刷会社としての使命だと感じています。

現在、私たち前田印刷では、能登の今を発信する季節情報誌「能登」の制作に力を注いでいます。被災された方々の声、支援に動いた人たちの姿、復興へと歩み続ける能登について記録し、それを伝え続けることが、読む人に勇気や希望を届け、石川県全体の元気に繋がることを願ってやみません。



～人と自然のためにできること～

株式会社日本海開発

〒929-0126
石川県能美市山口町
ワ27番地
TEL.0761-21-6867

廃棄物処理と資源リサイクルを通じて、地域社会と環境に貢献する事業を展開しています



南加賀支部
南純代 会員



2024年1月29日(月)

【支援の記憶: 災害ごみ回収と能登へのエール】

写真は能登へ災害ごみの回収に行った際に、有限会社スーパーロフティーの上野会員の所へ寄らせていただいたものです。当時は道路も悪く水やトイレが使えない状況で支援に行くこともなかなか困難であったため、写真を見てホッとしました。何か支援できることはないかと、販売されていた、みかんとシチューをあるだけ購入させていただきました。



2024年6月20日(木)

【エコキャップが繋ぐ支援の輪：能登半島地震義援金、地域と共に】

従来はエコキャップをワクチンとして寄付をさせていただいていました。しかし、震災以降は活動の一部を能登半島地震義援金として支援させていただき、現在も継続中です。

写真は市内の小学生たちが集めたものを寄贈していただいた様子です。「ECO キャップ活動・令和6年能登半島地震義援金」は、2024年6月20日(木)に能美市を通じて日本赤十字社石川県支部へ現金に換金をして寄付をさせていただきました。4,352.12kg(個人・団体68件)となりました。



2024年11月3日(日)

【能登へ想いを繋ぐ：災害支援、輪島での活動記録】

当社の有志たちで能登半島地震・豪雨災害の被災地、輪島市へ災害支援に行ってきました。

ボランティアにきている大学生たちが、家屋にたまった土砂の運び出しをした後の泥の回収と土砂場までの運送をしました。実際に現地へ足を運ぶことで、報道だけでなく悲惨な災害の現状が分かり、災害に対する備えや何かできることはないかと考える機会になりました。



【食で繋ぐ支援：重蔵神社での炊き出し】

女性陣は、輪島市河井町にある重蔵神社の前で、手作りしたおにぎりといなり寿司の配布、味噌汁や中華スープの提供をしました。

重蔵神社は、拝殿、社務所、境内社すべてが壊滅的な被害を受け、参拝等ができない状況でした。ですが、週末になるとこの場所を借りて、県内外より炊き出しや物資配布などの支援提供に来ている団体があるとのことで、地元の方々の憩いの場所となっているようで少し安心しました。



【それぞれの視点: 支援活動から見た現実・感想】

- 震災後初めて能登へ行った。ニュースなどで聞いてはいたけど能登里山街道があんなにひどい状態になっていることに愕然とした。2007年の能登地震の時にも支援に行ったことはあるが、今回は倒壊した家屋や土砂災害のひどい状況に、機会があればまた支援に行きたいと思った。
- 震災直後に行った時から10ヶ月が経ち、里山街道も直後よりは通行しやすくなっていた。家屋においては解体隊による撤去も少し進み更地になっているところも多くみられた。
- 行くときはあまり気付かなかった道路も往路は亀裂やがけ崩れが目立ち、地震の凄さを感じた。木造の倒壊した家屋は1階部分が完全に無くなり、発災当時の恐怖を覚えた。この状況を実際に見て命を守るための行動はどうすればよいか改めて考える機会になった。支援に入った近所のお宅をのぞいてみると、震災の後に泥が入って二重の災害に心が痛む。現状を知ることができてよかった。
- 参加するまでは支援は面倒だと思っていたが、実際に行って泥出しと運搬の作業に携わった。大学生を含むボランティアの人たちが泥出しをしても、運ぶ車両がなくては作業が進まない。車両をもっている僕たちの支援も必要だと感じた。1軒の泥上げをするだけで丸1日かかってしまう現状にまだまだ支援が必要だと思った。実際に行ってみて良かったと思った。
- 震災後初めて能登へ行ったが、以前見た風景とは全く違う景色になっていた。大学生達と一緒に支援を行ったが2時間ほどの作業ではなかなか進まず、毎日できる作業ではないので、支援やボランティアがもっと必要だと感じた。ニュースなどでは10年後に復興できると言っているが現状を見て、本当にまた元の輪島に戻るのだろうかと思った。実際に行ってみたことで、何かできることがあれば支援したいと思った。
- 幸いにもお天気が良く支援ができた。これから天候が悪くなって積雪もあると行くことすら困難になると感じた。今回、支援のお世話になった重蔵神社の禰宜の能門さんは、能登の現状を知って関わる人が増え支援の輪が広がることを期待しておられた。まだ、仮設住宅に入っておられる方達が、炊き出しの順番をついている際の雑談や、椅子に座ってお友達と笑顔でお話をしている姿がなんともほっこりする風景だった。やがて震災から1年が経とうとしている状況に、能登に人がまた集まり、きれいな景色を眺めたり、おいしいお魚を食したり、未来の希望につながるように私達が出来ることを見つけて支援をしていきたいと思った。

有限会社山口水産

〒929-2241
石川県七尾市中島町浜田ラ部26
TEL.0767-66-0446



能登支部
山口翔太 会員



1. 発災直後

能登かきを生産・販売しております。発災当初は自宅におり、両隣の家屋が倒壊。避難する為、会社や牡蠣の養殖場を確認せずに家族と避難所へ。翌日に会社と養殖場を確認。会社はこれと言った被害は無く、養殖場は集荷時期の牡蠣は被害は無く、育成段階の牡蠣を4割程度失いました（津波ではなく、海底が揺れたからだと言われています）



牡蠣の出荷再開は1月3日から一部再開出来ました。

また、14名いたスタッフが震災で家が住めなくなるなどの理由で9名になりました。



2. これまでの歩み

水道が復旧した2月頃からは本格的に出荷が再開出来ました。友人、お客様、同友会の会員の方々から沢山のご支援、牡蠣のご注文を頂き、「人との繋がり大切さ」を実感しました。

牡蠣の筏の修復、自宅の修復も完了し、価値観が大きく変わり、今まで生きてきた中で一番成長出来た一年になりました。

今までなんとなく「地域の為に商いを続けている意識」が公費解体が進み、能登の人口が減り、本当に能登が過疎化していく感覚が身に染みました。能登に産業が残れば能登に人が残る理由になると感じ、本当に「地域の為に商いを続ける覚悟」に変わりました。

3. これからの未来

町内では毎日の様に復旧業者の方々の車で交通量が非常に増えてます。その度に復興が進んでると実感しています。町内も公費解体が進み、復興が進んでると同時に、幼い頃から見慣れていた景色が変わっていくことに寂しさが込み上げてきます。

今後は能登に残ってくれた従業員を大切に、一人でも能登の人口減少を食い止める為、地域に根ざした会社を目指します。

金沢駅西支部



金沢駅西支部
炭澤吉治 支部長



能登島八ヶ崎海水浴場清掃にて

金沢駅西支部では、能登震災直後より会員同士や会社、個々でも沢山の「顔の見える支援」を行ってきました。

水が不足と聞けば「水を届けるチーム」を作り、「なりわい」を応援するために地元の物産を購入し、食事をしてネットワーク作りに動きました。

冬、東日本大震災時より繋がっている福島同友会の会員にも協力を得て、私たちがやるべきこと、そしてこれから起きることを学びました。

春、竹澤会員が東京同友会事務局長を招き、初動の大切さや公的機関との連携の取り方などノウハウを学びました。

また、現地で炊き出しをする橋爪会員を支部長やグループ長が支え合い協力して毎月能登へ足を運びました。

夏、地域政策委員会や金沢大学ボランティアさぽーとステーションの学生達と津波被害にあった能登島最北端の八ヶ崎海水浴場を復興し、地域の活性化に繋げるプロジェクトを計画実行しました。

小松の県議や能美の市議とも震災食セミナーなどを行いました。

金沢大学では学生が普段から取り組んでいる震災で汚れた写真を洗浄して被災者の元へ返す作業も体験しました。これは震災前から行っています。

秋、豪雨災害により、更に被害が大きくなり、有志で輪島や珠洲へ物資を運びました。

そしてまた冬が来ました。少しずつ前に進んでいます但復旧・復興はまだまだです。これからもできる限り能登へ足を運び、1月1日に起きた能登半島地震のことを風化させないように、他の団体と連携しながら活動をして行きます。



輪島市大屋小学校にてコッペパンなど200食支援



被災食セミナー

石川県中小企業家同友会 事務局

〒920-0059
石川県金沢市示野町南52AKビル3F
TEL.076-255-2323

事務局長
柴克也



事務局止まった時計

1. 発災直後の状況

発災直後、まず事務局員の安否確認を行いました。輪島市に帰省している可能性が高い廣瀬荘太事務局員に連絡が付きませんでした。夜に事務所にも行ってみましたが、金属製のキャビネットが倒れ割れたガラスが散乱しており愕然としました。2日より緊急出勤し一人分の業務スペースを確保しました。すぐに年末12月いっぱい退職した、井上千夏氏も駆けつけてくれ、1月入局の村松紀美事務局員と三人で手分けして、被災した能登支部会員27名の安否確認を行いました。能登のライフラインや建物等の被害は甚大でしたが、この時点では会員の人的な被害はなく、当時の橋本昌子代表理事に相談して復旧対策本部を立ち上げました。事務局では引き続き安否確認と会員の被災状況の聞き取り、またe.doyuから資金繰り対応や相談窓口の紹介等の情報発信も開始しました。



事務局被災



事務局被災

2. 復旧に向けて

2日の15時過ぎに廣瀬事務局員よりメールにより無事の知らせが届きホッとしましたが、実家と自分の車が全焼し両親と避難所にいるとの報告に心を痛めました。4日には宗守重泰復旧対策本部長の手配により有志による支援物資の第一便の目途がたち、上野真人能登支部長に相談したところ「自分達より奥能登に先に物資を送ってくれ」との言葉により、1月5日に珠洲市に向け出発しました。廣瀬事務局員は5日には事務局に顔を出してくれ15日からは通常勤務に復帰しました。この間も中同協の危機管理・災害対策本部とも密に連絡を取り合い、9日には中同協の池田泰秋事務局長が来県され理事会に出席してもらい中同協として全面的な支援の表明とあたたかいエールをいただきました。また、事務所内は青年部会のメンバーが片付けを手伝ってくれたおかげでいち早く復旧できました。

3. 連帯への感謝と石川の未来

全国会員からの多大なる支援金と中同協事務局の手配により中同協、北海道、宮城、福島、長野、兵庫の事務局からの人員派遣による支援。また東京同友会独自の物資支援をはじめ全国からの多大なるご支援と連帯にあらためて感謝申し上げます。当時、全国の事務局長から届いたお見舞と激励のメールに「全国に仲間がいる」と感じ、どんなに勇気づけられたでしょうか。この恩返しは、我々石川同友会が当事者団体として能登が元気になるような活動を継続することと石川同友会の運動の活性化だと思っています。そして恩送りとして、事務局も会員の皆さんと連帯して石川未来会議を中心に本記録集などの経験の蓄積と復興に向けて地域を巻き込んださまざまな活動をすすめていきます。



石川県中小企業家同友会

2024.1.2 発行

会員の皆さま

**1日（月）に発生した令和6年 能登半島地震について
「再度、地震が発生することを想定して動きましょう」**

1日午後4時10分ごろ志賀町で最大震度7の地震がありました。

初動として、現在、全理事（および委員長・部長）の安否確認を行い、6支部長を通じて支部会員の被害状況も含めて把握している最中です。事務局の廣瀬事務局員は輪島市（河井町）に帰省している状況で被災した可能性が高く、現時点では安否確認ができておりません。

そのほかの人的被害報告は、現段階では入っておりませんが、能登を中心に甚大な被害が想定されます。会員の皆さまの社員やそのご家族に被害が無いことを願うばかりです。地域によっては停電や機械の故障等から営業活動に支障が出ている企業もあるようです。地域や会員企業の被害状況が分かり次第、ご報告いたします。

気象庁によると、今後1週間ほどは同程度の地震が起きる可能性があるとして注意を呼び掛けています。注視して参りましょう。

*石川県の災害対策情報を添付します。ご活用ください。

・中小企業・小規模事業者緊急相談窓口

https://www.pref.ishikawa.lg.jp/kinyuu/keicishien/060101_jishinmadoguti.html

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/saigai/202401jishin-mokutekibetsu.html#jigyousyasoudan>

石川県中小企業家同友会 代表理事 橋本 昌子
復旧対策本部 本部長 副代表理事（総務担当） 宗守 重泰
副本部長 総務委員長 前田 陽介

本件に関するお問い合わせは同友会事務局まで
事務局 柴 克也



石川県中小企業家同友会

2024.1.10 発行

能登半島地震 対策本部ニュース vol.2

会員の皆さま

BCP（資金繰り：当面の事業再開と継続について最初に止める支払い対応について）

※ 資金繰りに応じて「銀行への元金返済」

現在のような状況でも銀行から借りられなくなってしまうことが最も怖いので、借入返済を最優先したいところですが、元金返済をストップまたは少なくしてもらい、銀行へのリ・スケジュール（「リスケ」）のお願いです。

各銀行の相談窓口へご連絡してください

参照：令和6年能登半島地震 復旧対策本部より（3）能登半島地震における各相談窓口一覧

まず、メインバンクから交渉を開始し、できれば、返済の減額ではなく、**元金の全額返済ストップをお願い**するようにしてください。その後、借入があるその他の銀行にも、全行交渉をしていきます。銀行から返済猶予を得られれば、復旧の時間を作ることができます。

(1) 手形の支払い

実務としては、まず、最優先は手形の支払いです。支払いが滞れば、手形が不渡りになります。手形の支払いには1円の不足も許されません。不足する見込みになったら、手形をジャンプしてもらい、長期の分割にってもらうように、取引先へお願いすることも必要です。**手形の不渡りが最も倒産するリスクが高いので最優先の支払いになります。**

(2) 社員への給与

社員への給与が給料日に払われなければ、社員はどう思うでしょうか。社員は辞めていってしまうかもしれません。そうなれば、会社を回復させることも難しくなってしまいます。辞めた社員は戻ってきません。したがって、社員への給与支払いの優先順位は高いものです。やむを得ず、給料日に全額が支払えなくなってしまった場合には、給与の10～30%だけを一時的に待ってもらうようお願いしましょう。速やかにお金を作り、残りの給与をできるだけ早く支払ってください。

(3) 材料代

会社を存続させるために、仕入先にも掛け合ってみましょう。全額の支払いをいきなりストップしてしまうのではなく、事情を話し、材料代の半分、あるいは1か月分ほどの支払いを待ってもらえないか交渉しましょう。ただし、自社より小規模な仕入先の場合には、その支払いが滞ることによって先に倒産してしまうことも考えられます。在庫を処分、売掛金が回収できた後には、早急に支払いをすべきです。今後の仕入れを断られるようになってしまった場合は、事業の回復はあり得ません。こちらも優先順位は高いです。

(4) 会社を維持するための諸経費（震災対策で猶予や一時免除の施策が順次発表されます。）
電気、ガス、水道などの公共料金は、1～3か月ほど支払いが遅れても何とかなるでしょう。ただし、あくまで一時的な遅延だと考えてください。

(5) 税金・社会保険料（能登半島地震における各相談窓口一覧にてご案内済み）

納付期限までに全額が支払えない場合には、税務署に事前に連絡しましょう。国税だけではなく、社員から給与天引きしている住民税や社会保険料、固定資産税などの地方税も、同様に事前に、税務署や県税事務所、市区町村にお願いに行くことが大切です。催促などを無視し続けることが最もやってはいけないことです。

(6) 銀行への金利

先に紹介した通り、銀行返済の「元金」は、早めに止める交渉をする必要がありますが、元金の返済をストップしてもらった場合でも、金利は支払い続けることが通常です。金利の支払いまで滞ると、**格付分類が大幅に下がります。金利は全額ストップではなく、一部だけでも猶予してもらえないか、お願いするように交渉してください。**

(7) 銀行への元金返済

全行へ交渉することで、1～2年の「元本据え置き」は可能です。誠意ある対応で交渉しましょう。

2024 年 1 月 1 日午後 4 時 10 分頃に石川県能登地方を中心にM7.6、最大震度 7 の地震が発生、深刻な被害をもたらしています。被害に遭われた皆様には心からお見舞い申し上げます。
被災した同友会の状況をお知らせします。中同協として今後、全国の同友会に支援金活動の取り組みを呼びかける予定です。ご支援いただいている皆様に心からお礼申し上げますとともに、今後のご支援も引き続きよろしくお願いいたします。

中同協 危機管理・災害対策本部 本部長 中山英敬（中同協幹事長）

被災地の状況 （2024 年 1 月 5 日現在）

【石川】 兼事務局長より

- ・1 月 2 日に復旧対策本部を立ち上げ、安否確認と被災状況の確認を行いました。有志による支援物資の第一便が珠洲市に向け出発（1 月 5 日）。
能登支部以外の 5 支部の会員企業に 1 か所拠点を作り物資の受け入れと送り出しを検討中です。
（物資収集と送り出し拠点は石川同友会役員の会社）また被災地より拠点と避難所の物資輸送（車両・人員）で協力依頼がありました。
- ・現在、石川県は個別の物資受け入れを行っていませんが、珠洲市、七尾市、輪島市では物資は足りていない状況です。
- ・大部分では人的被害はなく、会員企業は操業再開の準備を進めていますが、震源に近い七尾市を中心とした能登支部会員の中には、一時的に避難所で過ごした方もおり、和倉温泉では施設が当面使用できないなど深刻な被害があります。



（写真）左 2 点は珠洲市の様子（橋本・石川同友会代表理事より提供）。右 2 点は物資拠点、事務局内（兼・石川同友会事務局長より提供）

【富山】 玉崎事務局長より

- ・正副代表理事 5 名の会社も特に大きな被害は出ていません。
- ・1 月 1 日より全 7 支部の LINE グループ（平均 70%加入）にて被害状況や困り事の情報の共有をしています。
- ・いまのところ人的被害の報告は届いていません。
- ・震源地に近い氷見支部、高岡支部エリアでは、会社の外壁が崩れた、クラックが入った、樫が倒れたなどの報告が上がっています。道路に亀裂や段差が生じているところかなりあり、こちらは完全復旧までは時間がかかりそうです。

【福井】 高村事務局長より

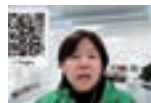
- ・正副代表理事 4 名の会社は、壁が落ちたりモノが散乱したくらいで通常稼働しているとのこと。
- ・あわら市で水道管が切れあふれた水で土砂崩れが起きて道路が陥没したり。道路と住宅で水が漏れて断水があったり、住宅の基礎部分がひび割れたりしたようですが、幸か不幸か会員企業のない地域でした。

【新潟】 西村事務局長より

- ・会員に関しては e.doyu、メール、SNS 等で情報収集している限りでは人的被害はありません。
- ・震度としては長岡市が 6 度弱と一番強かったですが、被害情報はなく、上越市、新潟市西区、西蒲区、中央区など地面の液化化現象が起きました。新潟市西区の一部避難・断水が継続しており、会員企業の社員さんが避難中との情報が入っています。
- ・会員企業では、壁の一部にひび割れ、屋根瓦落下など報告されています。屋内の破損物復旧など、すでに済まされている、また、仕事始めはその作業からになるところそれぞれです。

中同協 対策本部会議を開催

能登半島地震の被災地では、日を追うごとに被害の深刻さが明らかになりつつあります。中同協は 1 月 10 日、中同協危機管理・災害対策本部（本部長・中山英敬幹事長）をオンラインで開催し、被災同友会の状況を



対策本部会議で発言する
石川同友会の橋本代表理事

確認するとともに、今後の支援の取り組みなどについて検討しました。
出席した被災同友会の役員・事務局長からは「全国から多くの励ましの言葉や支援の申し出をいただき、心から感謝申し上げます。皆様からの励まし、さまざまな情報提供などが大変力になっています」とお礼の言葉がありました。出席者からは「現地のご苦労は大変なもの。全国の心を結集して全力で応援していきたい」「東日本大震災の時は全国からの支援や情報に救われた。被災地に寄り添い、支援していきたい」などの発言がありました。中山本部長からは「全国の連帯の力で被災地の復旧・復興を支援していきましょう。対策本部としても機能をフルに発揮していきたい」とまとめがありました。

本部会議では以下の点を 1 月 12 日の中同協幹事会に提案することを確認しました。

1. 支援金について

中同協として支援金口座を設け、各同友会の支援金の取り組みを呼びかける。支援金は被災現地の同友会へ提供するほか、復興に関する事務局的支援等に活用する。

支援金が不足する場合や緊急を要する場合は、中同協の災害対応積立金を活用する。

2. 人的支援について

被災同友会の事務局を支援するため中同協事務局員を派遣するほか、各同友会に事務局員の派遣を要請する。

3. 支援物資について

被災地の状況は日々変化しており、支援物資の内容も変わるため、全国への支援物資の協力要請は行わない。支援金を活用して必要な物資を現地などで調達して被災地に届ける。

※中同協に寄せられた支援金は、被災現地の同友会へ提供するほか、復興に関する事務局的支援等に活用します。

各同友会で支援活動はじまる

いくつかの同友会では会員への支援金の呼びかけをスタートするなど支援の取り組みが始まっています。東京同友会では、行政とタイアップした支援を開始。1 月 7～8 日には長野同友会の協力も得て支援物資を調達し、中能登町にブルーシートや介護衛生用品などを届けました（写真）。



石川県中小企業家同友会 事務局

〒920-0059
石川県金沢市示野町南52
AKビル3F
TEL.076-255-2323

能登支部担当事務局員
廣瀬 莊太



震災前の実家 兼 廣瀬屋漆器店

1. 震災当時

実家が朝市通りで漆器店を営んでおり、震災当時も実家兼お店にいました。震度7に襲われ、大津波警報とサイレンが鳴り響く中、身体の震えを必死で押さえ両親と共に避難所に避難しました。その後火災が発生、お店の商品、家宝、思い出の品、すべて燃えてしまいました。翌日現場を見に行った時、私含め全員呆然とするばかりで涙も出ませんでした。

自家用車も全焼し、レンタカーを借りようと全国チェーン数件に連絡するも断られる中、お休み中で心苦しい中、(有)音地自動車商会の音地利亮会員に電話したところ第一声が「生きててくれて良かった！」年始休にも関わらずレンタカーを手配くださりました。両親の前では弱気になれず虚勢を張っていた中、暖かな言葉に電話を切って涙が止まらず、石川同友会事務局で働いていて良かったと心から思いました。



震災前の実家 兼 廣瀬屋漆器店



2024年5月撮影、震災直後の実家 兼 廣瀬屋漆器店



震災前 別カット



2025年1月撮影、更地になった実家 兼 廣瀬屋漆器店



震災直後、1月2日撮影。

2. 能登支部担当事務局員として

派遣支援の全国事務局員と共に1～2月に能登支部企業約10社にヒアリング訪問しました。事業再開している企業のほうが稀で、倉庫や事業所の倒壊で途方に暮れている会員さんもいる中、印象に残っているのが会社をたたむという発想が全員無かったことです。社員の継続雇用、地元が必要とされている会員企業だからこそその「どうやって復興していくか」という覚悟に個人的にも勇気をいただきました。

3. 復旧・復興に向けて

震災から1年経ち、ニュースに取り上げられることが無くなり、金沢に住んでいると一瞬忘れてしまいます。しかし今も奥能登、能登は復旧段階で震災前の仕事が出来てない企業がほとんどです。地元の朝市通りもようやく更地になったばかりです。震災は全く終わっていません。今後も暖かいご支援をいただければ幸いです。

石川みらい会議について

石川県中小企業家同友会では、令和6年能登半島地震の発災から約半年後に、能登支部会員を中心として意見交換会を実施しました。被害状況も様々で、会員それぞれが様々な思いを抱く中、4回にわたり意見を集約する場を設けました。意見交換会の場で集まった様々な声や地域の課題、可能な取り組みを4つ（会員支援・会員増強・能登支部を中心とした活動費・地域の為の活動費）に分類し、具体的な事業・プロジェクトとして実行する段階へと移行しました。こうして立ち上がったのが「石川みらい会議」です。

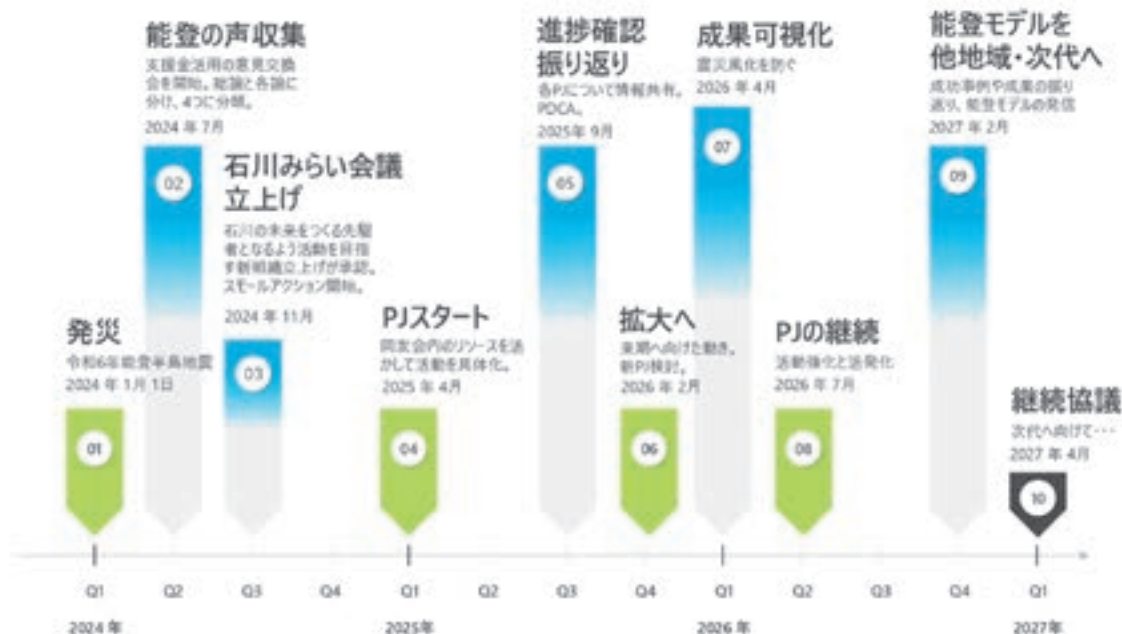
本会議の目的として【令和6年能登半島地震を踏まえ、自社の存在意義を改めて問い直し、社会的使命に燃えて事業活動を行い、国民や地域社会からの信頼と期待に高い水準で応えられる企業を目指し、私たち中小企業家同友会が石川の未来をつくる先駆者になるよう活動することを目的とする】と位置付け、能登の中でも会員企業が多い七尾市を中心に、地域の発展に寄与する事業を実施し、その費用の一部として中同協から頂いた支援金を活用させて頂くことを、理事会で審議のうえ進めていきます。



石川みらい会議として立ち上がるまで紆余曲折はあり、何度も議論を重ねてきたことにより、発災から数えると動き出すまでに多くの時間を要することになりました。大きな災害により地域は待った無しの状態。これにより、会としての活動への賛否が多かったことも事実です。議論を重ねることも大切ですが、それ以上に行動を起こすことが求められています。能登地方では地域課題の進行が10～20年加速したと言われており、多くの人たちが能登を離れたまま帰って来ることができず、インフラの復旧もまだまだの状況。多くの事業者の生業への影響は依然として残り、一刻の猶予も許されない状況が続いていることも現実です。

能登半島の復興に向けて、地域や会員企業のためにできる取り組みを実行し、会議の名称通り、活動を通して中小企業家同友会の名前が地域に広がり、新しい未来をつくるきっかけの場にできると幸いです。また、会議に参加した方々からは『ここに来ると元気がもらえる』という言葉頂きました。被災による大きな傷跡は残りましたが、得られたものも多いはずです。私たちは被災者ではなく主体者であることを大切に、小さな1歩でも着実に復興へ向けて前進させる前向きなエネルギーを生み出す場でありたいと思います。その一助となるよう、石川みらい会議を推進してまいります。

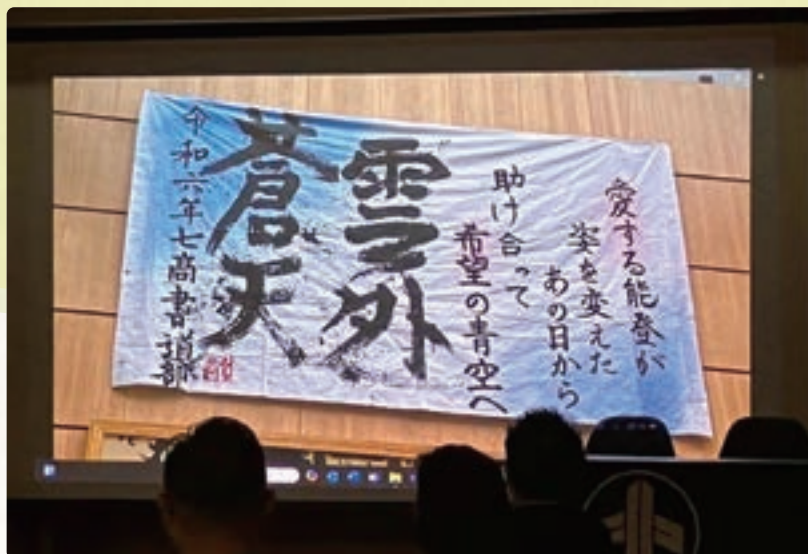
石川みらい会議 マイルストーンイメージ



経営者フォーラムin能登



実行委員長
乙丸屋久兵衛 会員



1. 開催のキッカケ

それは突然でした。

河内副代表から連絡があり、面談をした際に「乙丸屋くんの力で能登をメインにした経営者フォーラムを盛り上げてほしい。」とのこと。私自身、能登地震についてお仕事で関わることはありましたが、個人としては何をすればよいか分からず実際何も出来ていない状態でした。そんな私がこの役を受ける資格はあるのか？と最初は考えましたが、これをキッカケに能登地震について何か出来ることがあるのではないか？と前向きに捉え、大役を受ける決断をしました。

2. 能登で開催する意義

理事会からの希望は、「開催地を能登にして欲しい。」とのこと。能登の現状を知り、その目で見えて感じ取ってもらいたい、ということだと理解しました。ただ、過去に経営者フォーラムを能登で開催した事例はないみたいだし、能登に沢山の会員さんをお呼びするための移動手段や開催場所を考える必要があることなど、今までのフォーラムを踏襲することは難しいので、一から考える必要があります。

ですので実行委員メンバーは、私の独断で一から物事を考えるのが得意な方を選びました。メンバーを選考して第1回目の実行委員会を開きました。ここで一番大事なことは、【全員が納得したテーマが決まること】。経営者フォーラムは基調講演の後に各分科会が開かれるのが通常です。そうになると何人もの実行委員メンバーがそれぞれの長となり各現場を取り仕切ることとなります。方向性や開催意義が

ブレないようにするためにも、今回のテーマを全員で理解できるようにする必要がありました。

そして全員一致で決まったのが、【能登と共に一スタンドアップ石川一】です。能登・金沢・加賀それぞれが能登と共にあり、ずっと一緒だという想いと、スタンドアップ（立ち上がろう）石川という2016年の青全交の時の合言葉を用いて、私のようにまだ能登復興に携われていない人もこれを機会に立ち上がろう。という想いを込めました。

3. 難航! 開催までの道のり

ここまでは順調でした。しかしここから多々の問題が起こります。まずは基調講演をして頂く方が決まりません。七尾市長に依頼した際は、開催時期が選挙期間のためNG。震災が無ければ開催されていた賀詞交歓会で登壇される予定だった方への打診も、今の状況で講演活動は出来ないとNG。他にも能登に縁のある方に依頼するも全員NG。と、打つ手がない状況。また、開催にあたり能登までの移動手段として考えていた大型バスも10月の行楽シーズンのため1台もチャーターできませんでした。会場とする予定の場所も駐車場が30台程度しかないと、各自で能登に来てもらうことも難しく、前途多難です。

そんな中で開いた第2回実行委員会。現状をみんなで共有し打開策を模索したのですが、さすが実行委員メンバー！情報や人脈やアイデアが素晴らしい！基調講演が出来ないなら、能登支部の会員さん数名に登壇してもらいパネルディスカッションにしよう。開催場所や駐車場が問題なら、和倉の「のと楽さん」なら開催できるのではないかなど、私だけでは決められないことが、みんなと考えることでどんどん進んでいきます。

さっそく能登支部の方に声掛けをし、登壇の依頼を快諾していただき、開催場所も予約が取れました。それと同時に分科会の内容も固まりました。



4. 実体験を間近で聞いて

各実行委員メンバーに役割を担ってもらい、ようやくフォーラム実行委員会が動き出します。そして、最も肝心の基調報告のパネルディスカッションでは能登支部の会員さん4名から震災直後の状況と現在、そしてこれから考えていることをヒアリングしました。コーディネーターがメインで4名の話の深掘していくのですが、私も同席させてもらい、一緒にお話を聞きました。

だれもが壮絶な体験をしており、震災当日から今日まで生活もままならない状況で本当によく登壇を決意してもらえたな。としみじみ感じました。お話を聞いて心が震えたことがあります。それは、4名とも共通して「能登に残ってこの地域を何とかしたい!」という気持ちです。ある方は、「今までは事業承継や過疎化していく地域など、外部環境・内部環境に問題があるが出来る範囲でやればいい。と考えていたが、今は違う! 自分はやっぱり能登が好きでこの地域に役立つことをやっていきたい。」とおっしゃっていました。

その決意がひしひしと伝わり、とても感動したと同時に私自身も何か頑張ろう! と勇気をもらいました。

自宅が半壊になったり、仕事場の牡蠣棚が流されたり、旅館の再開時期がいつになるか見えなかったり、実家は関東地区なのに能登に残ったり、大変な状況で逃げ出したくなくてもいいはずなのに、皆さん「ホント大変や!」と言いながらも、前を向いて進んでいることに改めて経営者フォーラムでこの方たちのことを知ってもらいたいと強く思いました。

5. フォーラム開催!

各分科会では、女性部会の皆さん。青年部会の皆さん。障害者問題委員会の皆さん。経営労働委員会の皆さんのお力を借りて、登録者数が120名を突破。そしていよいよ当日を迎えます。

当日の朝、早めに実行委員会が集まり、会場のレイアウトなどをチェックします。みなさんでお揃いのTシャツを着て、一致団結。開始30分前になると、参加者の方が続々と石川県各地から参集してきます。独特の緊張感のある中、本番がスタートしました。

冒頭のごあいさつを経て、まずは基調報告である能登支部の会員さん4名とコーディネーターによるパネルディスカッションです。話を進めていく中で、ある会員さんが震災当時の説明をする際に色々な思いがこみ上げてきて涙を流し沈黙する場面がありました。どよどよしだす会場。どうすればいい? と考えていた矢先に、会場の会員さんが「〇〇さん頑張れー」と声をかけてくれました。すると涙を流していた会員さんも落ち着きを取り戻し、無事パネルディスカッションを終了することが出来ました。もしかしたら内容よりももっと濃いものが、あの涙や沈黙によって伝わったのではないのでしょうか。会場の皆さんがずっと真剣に聞いている姿を見て、私はそう感じています。

午後からは、それぞれの分科会場に移動して能登をテーマにしつつ、女性、若者、障がい者、経営者と社員、などなどの立場で取り組まれていることをご報告いただきました。分科会ごとに会社訪問を行い、震災の影響が色濃く残る場所を見ての報告会でしたので、ただお話を聞くよりもはるかに実感がこみ上げます。また女性部会は輪島商工会議所の女性会の方を七尾市にお呼びして女性目線での

震災と家族のことを話されて、男性との視点の違いが伝わりました。どの分科会も活発な意見交換が行われ、新たな繋がりが沢山出来たのではないかと思います。

6. 参加者の感想と自身の感想

分科会が終了し、メイン会場へ参加者が戻ってきます。私は帰ってきた皆さんを迎えていました。すると、沢山の方から「すごくいい分科会だった。」「今回のフォーラムすごく良かった。」「能登遠いけど参加して良かった。」などのお声をいただき、とても嬉しかった瞬間でした。 終了式も滞りなく終わり、これにて経営者フォーラムは閉会となりました。

今回、大役をいただいた私の感想は色々あるのですが、個人の反省点ではなく実行委員長としての感想は、【どんな環境にあっても道を拓くことが出来る】という言葉に尽きます。震災後、能登を離れた人もいます。残った方もいます。震災から半年後に祭りを開きたい人もいます。祭りに反対の人もいます。どの選択肢が正しくて何が間違いかという視点ではなく、何がしたいのか？を強く持っている人は、たとえその環境や状況が悪くても、前に進み自分だけの道を切り拓くことが出来るということです。

もしかしたら、後悔してしまう瞬間もあるかもしれません。たまに愚痴ってしまうこともあるかもしれません。でも、何のためにしているのか？これがはっきりしているからブレずに進むことが出来るはずです。そんな姿を今回のフォーラムで能登の方と触れ合って知ることが出来ました。

最後になりましたが、河内・河尻両副代表には終始、私の手綱を引いてコントロールしていただき感謝しております。そして実行委員メンバーの皆さんにも沢山助けていただきました。経営者フォーラムが無事開催できたのは、間違いなく皆さん一人ひとりのお力によるものと思っております。ご協力いただき誠に感謝しております。

この経営者フォーラムに関わられた皆さまの今後のご活躍を心よりお祈りしております。またいつか、それぞれが今よりもひと回りも二回りも成長して能登に集まりましょう。ありがとうございました。



地域政策委員会 能登島八ヶ崎海水浴場復興 プロジェクト



地域政策委員会 委員長
館喜洋 会員



能登半島地震。マグニチュード7.6（暫定値）、最大震度7の地震により能登各地の多くの建物が倒壊し、輪島朝市通り付近での大火事、珠洲の津波などニュースでも多く取り上げられるなか、私たち石川同友会能登支部の河尻会員の住む能登島でも揺れと津波があり大きな被害となりました。

河尻会員の八ヶ崎町は能登島の北端にあります。能登島大橋から中央を通り八ヶ崎町を繋ぐメインの大通りも大きく破損され、交通が遮断。そして津波により、例年夏には多くの海水浴客が集まる八ヶ崎海水浴場の海の家も中の設備がすべて流され使えない状況となりました。夏は八ヶ崎町みんなで支え、運営していた海水浴場でした。

地震の支援をひとつでもしていきたい。何かできることはないか、、、。私たちは地域の中小企業が地域づくりを推進する委員会であること、また仲間の会員の何か手助けをやりたい



と思い被害にあった河尻会員の八ヶ崎町の復興に少しでも役に立つこととして「八ヶ崎海水浴場復興プロジェクト」にのりだしました。

4月、5月と各地では道路の復旧が少しずつ進行中、海水浴場の状態が明らかになり、かろうじて残ったトイレとシャワーが、水を通せば使えることが分かり、海水浴場のオープンに向け光が見えました。今年の夏までに海水浴が出来る状態を目指し行動することを決め動き出す。6月30日に15名の同友会会員、金



沢大学ボラさぼのメンバー9名、八ヶ崎町のみなさんと一緒に津波でめちゃくちゃになった海の家とシャワー・トイレの清掃を行いました。ガラスや物で散乱した海の家、泥が詰まったトイレや排水を、みんなできれいにし、終了後は八ヶ崎公民館で町内の方々が用意してくれたお弁当を頂きながら学生や町の方々と懇談することで、改めて震災の大変さやみんなで支え合う心と絆の大切さを実感しました。7月には無事に水が通り、7月21日震災後、七尾で唯一の海水浴場をオープンすることができました。運営の手伝いにも微力ながら参加させて頂き、海水浴に来てくれた方々は、ここの常連さん「この静かで、本当に透き通ったきれいな海が好きで毎年来ています。今年も来て良かったです。」と多くの方が嬉しそうに海水浴を楽しんでくれていました。地域にあるお店が被害にあった飲食店さんも出店しており、微力ながら八ヶ崎地域の活性化に繋がりました。

これから復興が進み、新たな海の家がもどり八ヶ崎地域が盛り上がり、能登島そして能登全体がまた、たくさんの笑顔を生み出す場所となることを願って支援し続けます。

ご協力頂きましたみなさま本当にありがとうございました。復興までやり続けましょう！



女性部会



女性部会 部会長
前多美保 会員



能登支部・北原泉会員((有)アクロス警備保障)企業訪問 令和6年6月

北原泉会員((有)アクロス警備保障)を訪問しました。

社屋は亀裂やゆがみがひどく、敷地内の地盤沈下や駐車場の亀裂など、深刻な被害を目の当たりにしました。北原会員からは、地震発生時の状況や今後の課題、そして能登への思いを伺いました。

震災後、道路の復旧作業に伴う交通整理の必要性が増す中、社員の皆さんは24時間体制で迂回路の警備にあたり、地域住民や支援者の交通を確保しました。また、オンライン支部例会で会員の顔を見た際、「私は一人じゃない。同友会メンバーがいる!」と涙が溢れ、改めて繋がりや絆を実感したそうです。

北原会員は、「能登に来て話を聞いてくれるだけでいい」と語ります。その対話がきっかけとなり、多くの人が能登の課題解決に関わるようになることを願い、互いに助け合える環境を築いていきたいと考えています。私たちも出来ることから始め、一歩ずつ前進していきたいと強く感じた訪問となりました。

その後、北原会員は輪島市に営業所を開設し、能登一丸となって復興に尽力されています。私たち女性部会も、能登の復興に向けた取り組みを引き続き応援してまいります。



経営者フォーラム 令和6年10月

輪島商工会議所女性会とのディスカッション

輪島商工会議所女性会の澤田珠代会長をはじめ、伊藤三津子副会長、塩土純永復興委員長、能門亜由子氏とディスカッションを行いました。震災当時の状況や、現在の取り組み、今後の輪島・能登の未来について貴重なお話を伺いました。

澤田珠代氏（（有）澤田建具製作所・女性会会長）

発災時、人と人とのつながり、避難所でのリーダーの重要性を実感。事業再建のための補助金申請に苦勞し、多くの方が同じ悩みを抱えている現状を語られました。震災を経験したからこそ、命を守る建具を提案し、新たな価値を生み出していきたいと力強く語っていました。

伊藤三津子氏（医療法人社団 伊藤医院・女性会副会長）

避難時、病院を営む娘さん達とともに、患者のケアや共助の大切さを実践。情報を共有し団結することで困難を乗り越えた経験を話してくださいました。災害への備えとして家具の配置やガソリンの備蓄を意識するようになり、今後は輪島の自然を活かし、観光・漁業・伝統工芸を復活させたいと願っていました。

塩土純永氏（藤八屋本店・女性会復興委員長）

震災時、ご主人の体調不良で病院にいる中、本店の火災を知り、大きな喪失を経験。輪島塗は分業体制のため、一部の工程が被災すると生産が止まる厳しい現状に直面しました。しかし、全国からの支援に感謝しながら、自らの力で前を向き、輪島塗の伝統継承に尽力されています。「人間万事塞翁が馬」の言葉を胸に、一步ずつ進んでいく決意を語られました。

能門亜由子氏（重蔵神社・女性会）

初詣で賑わう元旦に震災が発生。地面がうねり、地鳴りが響く中、参拝者を誘導し避難。

その後、避難所では遺体安置所が隣接し、命の尊さを実感。炊き出しを率先して行い、助け合いの輪を広げました。現在は人口流出や商店の閉鎖を防ぐため、新しい輪島・能登を築く決意で活動中。クラウドファンディング「輪島のお店復興で住民が集う街へ」を立ち上げ、復興に向けた取り組みを進めています。

交流と未来への展望

分科会では、震災当時の報告を受け、その後も輪島訪問や交流を継続し、情報交換を行っています。皆さんの力強い言葉の裏には、日々の苦勞と多忙な生活があります。それでも、輪島・能登の魅力や人の温かさを伝え、新しい未来を創るために歩み続ける姿に、私たちも強く共感しました。

「声を聞くこと、つながりを続けることが何より大切」

「能登復興に取り組んでいこう！」という強い気持ちになりました。

能登に寄り添う心を忘れず、共に歩んでいきたいと思います。



時系列資料

令和6年能登半島地震発災からの記録

- 1月1日 地震発生
- 1月2日 能登半島地震復旧対策本部を設立
- 1月3日 石川同友会事務局 会員企業に向けた被害状況の確認開始
同友会事務局災害対応チェックリストに基づく行動を実施
収集すべき情報・発信すべき情報を整理
情報集の手段・救援活動・会内の対応・募金活動・相談窓口開設・行政との連携を検討
兵庫同友会の対応を参考に石川県中小企業家同友会青年部会臨時執行部開催
石川県中小企業家同友会からの情報確認・青年部会としての今後の活動・情報収集
地震の安否・家族の安否・社員の安否・会社の状況・各状況・必要な支援・必要な時期
今後の連絡手段を分けて収集する。
- 1月4日 臨時理事会にて会員被災状況の確認・当年度の活動予定についての確認・石川県中小企業家同友会復旧対策本部の方針・フェーズについて議論
- 1月5日 中同協危機管理・災害対策本部 第1報 「連帯の力で」石川同友会 柴事務局長より被害報告
会員有志による支援物資を珠洲市に送る
- 1月9日 石川県中小企業家同友会 理事会にて 石川同友会災害対策本部 「基本方針」の発信
「1 災害発生に際し社員やその家族、お客様とその家族などの人命を守り、安全を確保する。
2 中小企業は、地域社会と市民生活の命と暮らしを支える安全安心の砦。会員企業の業務再開こそ、真のライフラインの復興となる。
3 同友会事務局は、組織と会員の生命と利益を守り、危難に瀕した会員結集の旗印となる。中同協、隣県事務局と連携し活動をサポートする。」とした。震災発災後について協議を開始
理事会協議・審議事項 「復旧対策本部の活動と組織について」
 - ・石川の対策本部組織について・物資（要望の品目指定と希望数量目安指定）
 - ・支援金・人員（中同協または他県事務局員を石川同友会事務局に派遣依頼）
- 1月10日 中同協危機管理・災害対策本部ニュース 第2報 「連帯の力で」中同協危機管理・災害対策本部をオンラインで開催。支援金について・人的支援について・支援物資について協議。各同友会からも支援活動が始まる。

- 2月1日 理事会にて能登半島地震復旧対策本部について審議
能登支部会員被害状況について報告
- 2月26日 能登半島地震復興オープン例会 参加者128名 福島同友会 西條 勝昭氏(西条タクシー株式会社 代表取締役社長/福島県中小企業家同友会) 東日本大震災からの復興を踏まえた経営体
験報告
- 3月6日 理事会 支援金使途についての協議 協議1回目
- 4月25日 第49回定時総会にて「能登半島復興をオール石川で」と宣言
- 6月 理事会協議事項 「能登半島地震支援 石川同友会の活動について」協議1回目
- 6月 能登支部にてBCP例会を開催「同友会型企業にはBCPが必要」
報告者 石川県中小企業家同友会 白山・野々市支部 絹川善隆会員 参加者20名
- 6月 女性部会能登支部会員企業へ地震発生時の状況や今後の課題、能登に対する思いなどを聞く。
- 7月 理事会協議事項 「能登半島地震支援石川同友会の活動について」協議2回目
①会員支援 ②会員増強 ③能登支部を中心とした活動④地域のための活動を
- 7月 能登支部会員に 支援金配布
- 7月 中小企業家同友会全国協議会 総会にて 全国会員に向け能登支援についてお礼
- 7月 第1回 能登支部支援会議開催
能登支部会員を中心に被害状況の確認・これからについて
- 7月 地域政策委員会 能登島の海岸 海水浴場復興PJ ～8月
- 8月 第2回 能登支部支援会議開催
能登支部会員を中心に復興までの会議を始める
- 8月 理事会協議事項 「中同協能登半島地震支援金の活用(案)について」 協議1回目
- 9月 第3回 能登支部支援会議開催
能登支部会員と共に石川の復興を考えて「石川みらい会議」設立することを確認
- 9月 理事会協議事項 「中同協能登半島地震支援金の活用(案)について」 協議2回目
- 10月 理事会協議事項 「中同協能登半島地震支援金の活用(案)について」 協議3回目
- 10月 第37回 石川県経営者フォーラムを能登 七尾で開催する 場所:のと楽
参加者102名 メインテーマ:「のたとともに」 ～スタンドアアップ石川～ を開催
基調報告ではパネルディスカッション形式で多田健太郎会員(有) 白崎シーサイドホテル多田屋
/笹本和茂会員 すぎ省水産(株) /山口翔太会員(有) 山口水産/上野真人会員(有) スーパー
ロフティの能登支部会員4名がパネラーとして登壇、川島鉄平会員/ウエルド(株)をコーディネ
ーターに能登半島地震の壮絶な体験を報告
- 11月 第1回 石川みらい会議を開始
会議体の目的として 石川の未来をつくる先駆者になる活動を
- 11月 第2回 石川みらい会議 主な議題として 活動計画 ロードマップづくり
- 1月 第3回 石川みらい会議 以後 能登支部を中心に毎月1～3回開催
- 3月 興能信用金庫と石川県中小企業家同友会 能登支援に関する連携協定締結

会員アンケート

令和6年1月16日～26日に行った全会員（403名）に向けたアンケートは、全6支部から69件の回答がありました。支部別の被災件数、業種別被災件数（いずれも軽微被災含む）、支部別被害額、業種別被害額（いずれも回答者推定含む）は図の通りです。

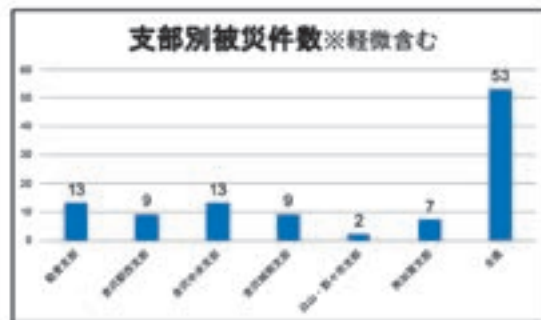
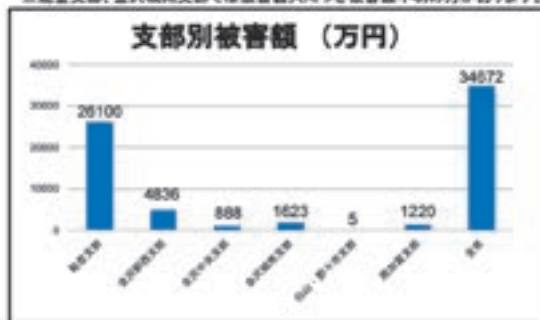
支部別被災件数は、能登支部13件、金沢駅西支部9件、金沢中央支部13件、金沢城南支部9件、白山・野々市支部2件、南加賀支部7件と全支部に及びました。

支部別被害額では、能登支部で2億6,100万円と全県被害額の75%を占めます。（被害が甚大で概算額が不明を除く）業種別被災件数は、製造業11件と最も多く、次いで卸売業・小売業10件となりました。

令和6年能登半島地震における会員被災状況グラフ(回答69社)

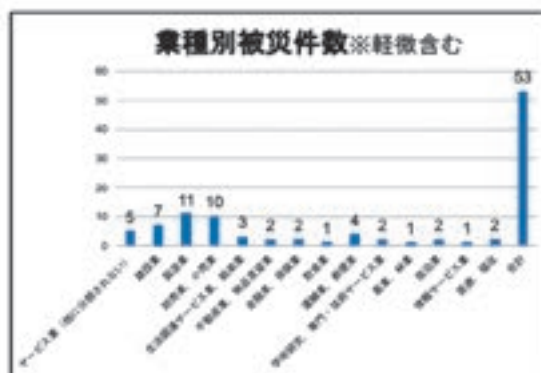
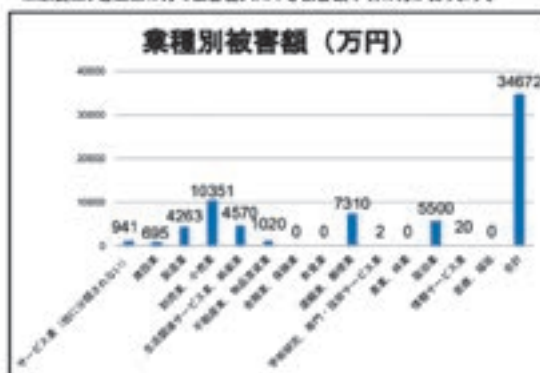
【支部別での被害】

※能登支部、金沢城南支部では被害甚大につき被害額不明の方がおります。



【業種別での被害】

※飲食業、宿泊業の方で被害甚大につき被害額不明の方がおります。



地震の爪痕

地産地消文化情報誌『能登』vol.55より抜粋

輪島市・志賀町





輪島市門前町



輪島市門前町



珠洲市・穴水・門前



珠洲市・穴水・門前





珠洲市・穴水・門前



のと里山海道



のと里山海道



全国組織での広報記事

能登半島地震 各地で深刻な被害

連帯の力で困難を乗り越えよう

1月1日、石川県能登地方を震源とする最大震度7の地震が発生し、深刻な被害をもたらしています。被害に遭われた皆さまには心からお見舞い申し上げます。被災した同友会では、会員企業の安否確認や被災者支援などの取り組みが行われています。中同協としても全国の同友会に支援活動と呼びかけることになりました。

石川同友会
 珠洲市に被害された同友会の奥様、現地にいらつしやうと御岳父様がおこたまりになりました。金沢市を含む多くの地域で会員・事務局は無事、企業・事務局は無事で、会員企業の多くは操業を再開していますが、震源に近い尾市を中心とした能登支部の会員には甚大な被害が出ています。会員や事務局員の実家が地震や火災で全壊・全焼したり、旅館・営む会員企業では施設が当面使用できなくなったり、深刻な被害が出ています。

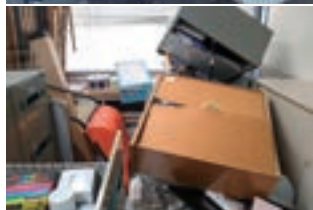
富山同友会

状況の確認を行いました。1月5日には、有志による支援物資の第一便が珠洲市に届け出ました。

現在、会員・事務局に人的被害はありません。SNSで会員の被害状況や困りごとの情報を共有しています。震源地に近い水見支部、高岡支部エリアでは、会社の外壁が崩れた、ひび割れが入った、塀が倒れたといった被害が出ています。

新潟同友会

現在、会員や事務局に人的被害はありません。上越



①石川同友会は珠洲市に向け、有志による支援物資を送り出しました。②被災した石川同友会の事務局

福岡同友会

現時点では会員・事務局とも人的被害はありません。石川や富山・拠点をもつ会員企業では壁が落ちた、モノが散乱したなどの被害がありますが、通常稼働しています。

支援金のお願

中同協では全国の同友会に支援金の取り組みを呼びかけ、会員の皆さまに募金をお願いすることになりました。各同友会が持つ支援金活動へ皆さまの協力を願います。直接、中

全国の会員数と組織率（2024年1月1日現在）

同友会	会員数	組織率%	同友会	会員数	組織率%	同友会	会員数	組織率%
北海道	5,657	7.86	新潟	517	1.70	岡山	550	2.16
青森	414	2.95	富山	487	3.50	広島	3,014	7.58
岩手	377	2.81	石川	403	2.43	山口	342	2.19
宮城	1,002	3.70	福井	204	1.71	香川	1,568	10.65
秋田	413	3.58	静岡	1,105	2.19	徳島	459	4.43
山形	468	3.27	愛知	4,344	4.33	愛媛	403	2.20
福島	1,866	7.14	三重	385	1.91	高知	125	1.53
茨城	265	0.81	岐阜	703	2.49	福岡	2,301	4.03
栃木	150	0.55	滋賀	594	4.45	佐賀	107	1.28
群馬	535	1.87	京都	1,810	5.70	長崎	708	4.93
埼玉	1,007	1.26	大阪	2,150	1.72	熊本	741	3.58
千葉	1,751	2.93	兵庫	2,291	3.99	大分	553	3.74
東京	2,201	0.89	奈良	464	4.36	宮崎	454	3.52
神奈川	876	0.86	和歌山	337	3.36	鹿児島	467	2.35
山梨	353	3.11	鳥取	144	2.12	沖縄	1,092	8.37
長野	857	2.75	島根	364	4.22	全国	47,378	2.91

協の支援金口座に振り込む場合は下記を参照ください。寄せられた支援金は、被災地の同友会へ送り、被災同友会および会員企業の支援などに使われます。

中同協の支援金受付口座
 みずほ銀行 四谷支店
 普通 〇〇〇〇〇〇〇〇
 中小企業家同友会全国協議会
 事務局 池田泰秋

「連帯の輪」広がる 能登半島地震被災同友会への支援



幹事会で被害状況を報告する
石川同友会代表理事の橋本氏

中同協は1月10日、中同協危機管理・災害対策本部をオンラインで開催し、被災同友会の状況を確認するとともに、今後の支援の取り組みについて検討しました。本部会議は以下の点を第3回中同協幹事会に提案し、承認されました。

①中同協として支援金口座を設け（詳細は一面へ）、支援金が不足する場合や緊急を要する場合は、中同協の災害対応積立金を活用する。②被災同友会の事務局へ中同協事務局員を派遣するほか、各同友会に事務局員の派遣を要請する。③被災地の状況は日々変化しており、支援物資の内容も変わるため、全国への支援物資の協力要請は行わず、支援金を活用して必要な物資を現地などで調達して被災地に届ける。

いくつかの同友会ではすでに取り組みが始まっており、東京同友会は、行政とタイアップした支援を開始。1月7～8日には長野同友会の協力も得て物資を調達し、中能登町にブルーシートや介護衛生用品などを届けました。

中小企業家しんぶん 第1641号（2024年1月25日発行）

能登半島地震各地の支援

現地行政と連携して

オーダーメイド型の支援物資を実施

第1～第5次支援物資 長野と連携して24時間で現地へ

東京



④能登町への第3次支援、⑤穴水中学校に代替給食で使う什器を届けました

届けるというもので、偏りがちな支援の隙間を埋めるものです。素早く支援が行えるように、長野同友会協力のもと、物資の購入とトラックの確保は長野市で行っています。

東京同友会では、1月2日より能登半島地震の支援本部を立ち上げ、石川県の市町村に向けて団体枠での支援をエントリーしました。震災の支援には、速やかに必要な支援物資を送る第1段階の活動、被災地同

友会の活動の継続を支援する中期的な活動、被災地の中小企業の復興を支援する長期的な活動の3段階があります。その第1段階として行ったのが、被災地が必要とするものをオーダーに

応じて用意し24時間以内に、男女の下着、ノート型パソコンとプリンターを届け、16日には同じく能登町に電子レンジと食料、アルミシートを届けました。そして22日には穴水町の避難所にポータブル電源と中学校の代替給食で使う什器を届けました。

行政の方からは『欲しいものが頼んでから翌日に来るのでは！早くてありがたい』と喜ばれています。

※現地や支援の様子
<https://www.tokyo.doujin/news/4629/>

中小企業家しんぶん 第1642号（2024年2月5日発行）

能登半島地震に関する緊急要望・提言

2024年2月7日 中小企業家同友会全国協議会

私たち中小企業家同友会全国協議会〔略称・中同協〕は、1969年（昭和44年）設立以来、自助努力による経営の安定・発展と、中小企業を取り巻く経営環境を改善することに努めてまいりました。本年1月に発生した能登半島地震は、北陸地方を中心に大きな被害をもたらしています。「被災者の生活と生業支援のためのパッケージ」（以下「支援パッケージ」）が公表され、官民が協力して復興、復興に総力を挙げて取り組んでいます。これまでの大規模災害の教訓も踏まえながら、より一層被災者の立場に寄り添った支援施策が求められています。私たちは、中小企業家としての社会的責務を果たし、日本経済と中小企業が発展できる環境をつくるために以下のような政策の実施を求めるものです。関係各位のご協力、ご支援をお願いします。

1. 地域の雇用維持に全力で取り組める支援を

地域の雇用を守ることが、被災地住民の生活再建、地域経済の復興の要となる。地域雇用の大部分を担っている中小企業が雇用維持に全力で取り組めるような支援を行うこと。

2. 被災地域住民の生活再建に向けた支援

被災地の生活再建のために、水道・電気・ガスなどの生活インフラ、道路・鉄道・港湾などの産業インフラの早期復旧を図ること。また仮設住宅等の建設も早急に進めること。地域インフラの復旧にあたっては、地元企業への発注を原則とし、施工能力に懸念がある場合は共同事業体の組成を促す等、地域経済再建を最優先にすること。被災住宅の再建・リフォームに際しては、地元企業への発注や県産材活用を行う被災者に対し補助を増額するなど、その促進を図ること。また復興計画の策定にあ

たっては、地元住民や地元企業の意見を取り入れながら進めること。

3. 操業再開にむけた支援

被災地の復興にあたっては、地域経済を支える中小企業の一日も早い復興が肝要である。被災した中小企業への緊急休業補償制度の確立が切望される。当面、事業継続のための最低限の措置として、設備のリース代など固定費への補助事業を検討すること。

4. 緊急融資の創設および既存債務の返済条件緩和

1月25日に公表された「支援パッケージ」に盛り込まれた各種資金繰り支援策の周知徹底を図るとともに、売上減などの影響を受けた中小企業の既存債務について返済条件緩和又は「返済凍結」などを実施す

5. 社会保険料の免除や法人税等の減免

被災中小企業の再建にあたっては二重債務の負担が大きな課題となるため、現在の「支援パッケージ」では検討の表明にとどまっている地域経済活性化支援機構等による債権買取や出資のスキームの早急な具体化を図ること。

6. 「なりわい再建支援事業」の利用推進

被害を受けた施設・設備の復旧に対する直接的な補助を行う制度として「なりわい再建支援事業」が「支援パッケージ」に盛り込まれ、被災中小企業の再建・事業再開に大きな役割を果たすことが期待される。制度の運用に際してはこれまでの大規模災害の教訓等も踏まえ、手続きの簡素化と迅速な対応を図るとともに、復旧後の改修・処分などにも柔軟に対応するな

ど、継続的な充実と改善に努めること。

7. 風評被害の防止

観光やイベントのキャンセルなどが相次ぎ、影響を受けている関連業のすそ野は広く、深刻なダメージを多くの中小企業が受けている。適切な情報発信などを

8. 地域の経済循環の復旧・強化を重視した支援施策を

被災者からの復旧・復興にあたっては被災者の生活を支える地域産業と雇用の再建が不可欠であり、そのためには復興資金などが地域内で経済循環する仕組みの構築が必要だということである。兵庫県復興10年委員会（『阪神・淡路大震災復興10年総括検証・提言報告』（2005年）は、震災後2年間の復興需要14・4兆円のうち、90%が被災地外に流出しており、地元への発注率がより高ければ、復興も早まっていたかもしれないことを指摘している。こうした教訓を踏まえ、地域の経済循環を高めることを重視した支援施策を推進すること。

9. 復興庁の機能強化を

「災害の時代」とも言われ、日本全国で災害が起こる可能性が高まっている。復興庁の役割・機能を強化して、大規模災害時の経験・教訓を蓄積することにも、防災や減災、災害時のより効果的な復旧・復興の取り組みなどに知見を活用する仕組みを強化すること。

2024年2月7日
中小企業家同友会全国協議会
会長 広浜 泰久

データを統計で見える

改めて企業防災の検討を

2024年の元日に発生した能登半島地震は最大震度7、津波も引き起こし、甚大な被害をもたらしました。地震から2カ月が経とうとしている今でも、ライフラインの復旧すらままならない地域もあります。

経済センサスでは、被害の大きい市町村の事業所数は約1万弱となっています。第1次産業や商店、伝統産業、観光産業などには甚大な影響が出るとみられ、インフラなどの復旧・復興が長期化すれば、その影響はさらに拡大する可能性が出ています。比較的被害が軽微とみられる金沢市など周辺の地域では、今後の復旧・復興需要もありますが、自粛ムードや風評被害なども見られます。

帝国データバンクでは、2024年1月24日に「能登半島地震の影響と防災に関する企業アンケート」の結果をプレスリリースしています。本調査は有効回答企業数1,255社（インターネット調査）で、甚大な被害を受けた能登地方の企業にはアンケート要請を行っていませんが、参考になる調査です。

「能登半島地震を機に、改めて大切だと考えた企業防災対策」（図1）について、「飲料水、非常食などの備蓄」が39.2%、「社内連絡網の整備・確認」が38.3%、「非常時の社内対応体制の整備・ルール化」が31.6%となっています。また、「『企業防災』の大切さを改めて実感した」という回答は全体の94.9%にも上っており、「事業継続計画（BCP）自体の策定・見直し」（20.6%）は5社に1社という結果になっています。

中同協では、「同友エコアンケート」（図2・総回答数1,474社）でBCPについての調査を行っています。「ISO22301（事業継続）を取得している」（※国土強靭化貢献団体認証制度）は7社・0.47%、「事業継続力強化計画の認定（経産省）を得ている」は117社・7.94%、「事業継続計画（BCP）は策定している」は235社・15.94%という結果となっています。合わせると24.96%となり、4社に1社がBCPを策定していることになりませんが、裏を返すと4社に3社がBCPを策定していないことは課題であると感じます。改めて「企業防災」を検討し、「BCP」の策定・見直しを進める必要があります。

（図1）能登半島地震を機に、改めて大切だと考えた企業防災対策



（図2）事業継続計画（BCP）について

選択肢	回答数	回答率
1.ISO22301（事業継続）を取得している	9社	0.61%
2.レジリエンス認証を取得している（※国土強靭化貢献団体認証制度）	7社	0.47%
3.事業継続力強化計画の認定（経産省）を得ている	117社	7.94%
4.事業継続計画（BCP）は策定している	235社	15.94%
5.事業継続計画（BCP）は策定していない	641社	43.49%
6.事業継続計画（BCP）を知らない、わからない	229社	15.54%
7.その他	294社	19.95%

出所：中同協「同友エコアンケート 2023-2024」

中小企業家しんぶん 第1644号（2024年2月25日発行）

能登半島地震などで緊急要望

中同協

中小企業庁と懇談する石渡政策委員長（右から2人目）



中同協は、2月7日から14日にかけて「能登半島地震に関する緊急要望・提言」を中小企業庁、各政党の国会議員へ提出し、懇談を行いました。

を行いました。また1月に実施した「タイハツ工業の品質不正問題」に対する緊急影響アンケートの結果を紹介し、国への要望などを伝えました。

今回の緊急要望・提言では、被災地の復旧・復興に向けて地域の雇用維持に全力で取り組める支援、地域の経済循環の復旧・強化を重視した支援施策などを要望しています（中小企業家しんぶん2月15日号8面参照）。

「緊急影響アンケート」については、タイハツ工業の品質不正問題によって企業や地域への影響が広がっていることを紹介するとともに、政府などへの要望を伝えたアンケート結果を、以下に紹介します。

果は2月25日号1面参照。要請行動には、中同協から石渡裕・政策委員長など3名が参加しました。今回面会した国会議員は次の通りです。

自民党 伊藤達也氏（衆・代理）、公明党・中野洋昌氏（衆）、立憲民主党・大島敦氏（衆）、山岡達丸氏（衆）、渡辺創氏（衆）、国民民主党・玉木雄一郎氏（衆）、日本共産党・笠井亮氏（衆）、岩渕友氏（参）、日本維新の会・音喜多駿氏（参・代理）、れいわ新選組・大石あき氏（衆・代理）、社民党・福島みずほ氏（参）、参政党・神谷宗幣氏（参・代理）。

中小企業家しんぶん 第1645号（2024年3月5日発行）

復興への思いを同友会に結集！

全国からの支援に感謝

復興に向けて

いる山口翔太氏（有山口水



①約130名が参加した全県オーブン例会、②例会で報告を行った西條勝昭氏

われる能登の気風が感じられました。ピンチをチャンスに変えようとする3村は、復興への道のりを力強く歩んでいます。



復興への課題

過去の震災は、被災地までのアクセス道路が1ヵ月程度で10本は、復旧したところですが、能登半島ではもともと1本しかない主要道須賀路（と里山海道）が2ヵ月以上たっても復旧していない区間があります。いまだに1万数千人が断水しており、宿泊施設が再開できないことが組織的な復興活動の妨げになっています。高齢化の進んだいた奥能登地域は、雇用が維持されなければ、流出に拍車がかかることが懸念されており、中小企業の役割が問われています。

「STAND UP 石川！」

てきた。若手中心に和倉復興プロジェクトが立ち上がり、リーダーは多田元支部長。同友会に入ってよかったです。」と話した。多田健太郎氏（佃白崎シーサイドホテル 多田屋代表取締役社長）は「旅館という枠組みを超え、若手経営者全体で協業して奥能登復興の機運を盛り上げてきた。」と話しました。

2月26日に全県オープン例会を開催、約130名が集い、福島同友会の西條勝昭氏（西条タクシー（株）代表取締役）の報告から震災復興について「これからやるべきこと」を学び合いました。西條氏は、自身の経験を踏まえ、「正解のない復興の形を決められるのは地元の自分たちだけであり、そのために若い世代は

自分達が大きな被害に遭っているにもかかわらず他の人の心配をする「能登はやさしや土までも」と言

ほとんど挑戦してほしい。そして、先輩方はその挑戦を温かく見守り後押ししてほしい」と語りました。冒

2と3月は『働く環境づくり』強化月間です

全国の会員数と組織率（2024年3月1日現在）

同友会	会員数	組織率%	同友会	会員数	組織率%	同友会	会員数	組織率%
北海道	5,672	7.88	新潟	525	1.73	岡山	557	2.19
青森	415	2.95	富山	491	3.53	広島	3,016	7.59
岩手	381	2.84	石川	392	2.36	山口	343	2.19
宮城	995	3.67	福井	206	1.73	香川	1,563	10.62
秋田	420	3.64	静岡	1,109	2.20	徳島	466	4.50
山形	473	3.30	愛知	4,369	4.35	愛媛	409	2.24
福島	1,859	7.11	三重	389	1.93	高知	125	1.53
茨城	264	0.81	岐阜	704	2.49	福岡	2,296	4.02
栃木	150	0.55	滋賀	589	4.41	佐賀	108	1.29
群馬	530	1.86	京都	1,813	5.71	長崎	708	4.93
埼玉	1,004	1.25	大阪	2,181	1.75	熊本	724	3.50
千葉	1,794	3.01	兵庫	2,332	4.06	大分	565	3.83
東京	2,219	0.89	奈良	470	4.41	宮崎	457	3.55
神奈川	895	0.88	和歌山	338	3.37	鹿児島	464	2.33
山梨	357	3.15	鳥取	142	2.09	沖縄	1,090	8.36
長野	853	2.74	島根	365	4.23	全県	47,587	2.92

頭には能登支部会員でもある茶谷義隆・七尾市長からもあいさつがあり、最後に2016年青全交^お石川の「スローガン」「STAND UP 石川！」を復興の想いを込めて発声し、締めくくりました。

中小企業家しんぶん 第1646号 (2024年3月15日発行)

行政・社協・支援団体・東京同友会の連携で 輪島市門前町に念願のボランティアセンター を開設！

東京

5月のゴールデンウィークに、能登半島支援で輪島市へ行きまし。ボランティアの人影はまはらで、支援者の足は関心の低下とともにむしろ遠のいていくようです。そして春らんまんの青空の下、手付かずの倒壊家屋が3カ月前と変わらぬ姿でそこにあります。

石川県の4月12日の調査では全壊が8241棟、半壊が1万5326棟、一部破損が5万3011棟と膨大です。それをカバーする仮設住宅の着工戸数が4600戸、完成はその1割程度であり、行政の窓口には長引く避難所生活と生活再建に不安を抱えた人々が押し寄せています。

今回、私たちは第15次支援として輪島市門前町でボランティア募集のポトル

能登半島地震の支援金6200万円を被災地に送金

中同協では、1月1日に発生した能登半島地震を受けて被災同友会の復興に向けた対応のため、支援金を募り、総額6213万3948円が第1次支援金を除いた5044万5928円を第2次支援金として3月21日付で被災地に送金しました。

被害の大きかった石川同友会には、事務局の人的支援として中同協と各同友会からのべ7名の事務局員を派遣し、支援金の一部を派遣費用に活用しました。

中小企業家しんぶん 第1649号（2024年4月15日発行）

中小企業家しんぶん 第1652号（2024年5月15日発行）

能登半島地震支援金の 配分に関わる最終報告

2024年1月1日、石川県能登地方を震源とする最大震度7の地震が発生し、死者241名、住宅の全半壊2万1695棟と深刻な被害をもたらしました。

＜支援金総額と配分＞	
1、お寄せいただいた支援金総額（257件）	64,908,399 円
2、支援金の配分	
1) 事務局支援派遣関連連費（1月16日～3月1日、のべ7名）	1,166,031 円
2) 支援金交付 石川同友会へ	50,993,894 円
3) " 富山同友会へ	6,374,237 円
4) " 新潟同友会へ	6,374,237 円
計	64,908,399 円



能登半島豪雨災害の被災地を支援

東京

東京同友会は9月25～26日、石川県輪島市と門前町で豪雨災害の支援活動を実施しました。東京同友会の能登への支援は今回で23回目となります。

支援のフェーズが避難から生活再建に移り、各社も事業再開に向けて動き始めた直後の災害でした。豪雨

中小企業家しんぶん 第1667号（2024年10月15日発行）

中小企業家しんぶん 第1670号（2024年11月15日発行）

令和六年能登半島地震記録誌

石川。未来への贈りもの

発 行 日	令和7年5月21日
編集・発行	石川県中小企業家同友会 みらい会議 事務局920-0059 金沢市示野町南52 AKビル3F TEL.076-255-2323 URL www.ishikawa.doyu.jp
印 刷	前田印刷株式会社



石川県中小企業家同友会